勝利の伝説シェブロンラインは最高級品の証。

"Chevron-Line" ist der Beweis höchster Qualität.



勝利をめざすなら、選ぶべきだ!

———無言の威圧感を与えるヒュンメル———

■第10回世界男子選手権詳報……■

エース蒲生が負傷
日本は残念ながら14位に留る

宿願のベストエイト入りを狙って勇躍、ヨーロッパの強豪に挑んだ日本は、緒戦で大黒柱・蒲生が相手シュートの直撃を顔面に受けるという大きなアクシデントに見舞われた。以後の試合は蒲生欠場の〝片肺飛行〟という苦しい展開前回（12位）を下廻る14位という思わぬ結果を招いた――第10回世界男子選手権は2月23日から3月7日まで西ドイツに世界の精鋭16カ国が参加して盛大に行われた。

予選リーグC組にアジア大陸代表として7回目の出場を果たした日本は、蒲生が欠けて攻撃の迫力を欠き、東欧二強とスイスの高く厚い壁を切り崩せぬまま敗退、13～16位決定リーグでは、初参加のキューバに足元をすくわれる不覚の1敗が響き、結局、14位に留った。

優勝争いは、前王者、西ドイツ、モスクワ・オリンピックチャンピオン、東ドイツがともに準決勝リーグで退く波乱などあり、グランドファイナルはソ連×ユーゴが初対決。延長にもつれこむ死斗の末、ソ連が悲願の初制覇を飾った。

6位までにロサンゼルス・オリンピック出場権が与えられたが、西ドイツは、この選にもれてしまった。

史上初のアジア大陸第2代表クウェートは15位、次回からまたアジア大陸代表は1カ国にしぼられる。

10日間の激斗に集った観衆は約十四万人といわれ、史上最高の盛りあがりと好内容のうちに、大会は熱狂と興奮の幕を閉じた。

第10回世界男子選手権 日本選手団

・団長　荒川　清美（日本協会専務理事）
・監督　竹野　奉昭（日本協会強化部長）
・コーチ　東　嘉伸（日本協会強化コーチ）

GK	①福井　秀人	(30才	・湧永薬品)	180cm	㊻
	⑫大畑　孝広	(24	・本田技研鈴鹿)	184	㉕
	⑯井藤　英忠	(22	・湧永薬品)	185	⑲
FP	②(主)津川昭	(30	・湧永薬品)	180	㊸
	③志賀　良弘	(25	・湧永薬品)	188	㊷
	④関　健三	(27	・三陽商会)	180	㊳
	⑤斉藤将一郎	(28	・湯沢クラブ)	187	㊼
	⑥斉藤　幸司	(28	・大崎電気)	174	㊸
	⑦山本　伸二	(28	・湧永薬品)	178	㊳
	⑦大原　真造	(29	・大同特殊鋼)	175	㉞
	⑨穂積　豊彦	(29	・湧永薬品)	180	(70)
	⑩中本　満明	(27	・大同特殊鋼)	184	㊿
	⑪蒲生　晴明	(27	・大同特殊鋼)	192	(94)
	⑬西山　清	(22	・筑波大)	181	⑪
	⑭池ノ上孝司	(26	・湧永薬品)	185	㊸
	⑮猪野　栄一	(22	・中大)	185	⑪

・左欄○内数字は今回の背番号
・右欄○内数字は公式国際戦出場回数（本大会終了まで）

予選リーグ（C組）

日本の第1戦（遠征第14戦）東ドイツとの試合は2月23日午後8時45分からハンブルグのアルステルドルファー・スポーツホールで行われた。審判＝M・マリン、S・セルバン（ともにルーマニア）、観衆＝四千五百。

東ドイツ 28（13―7、15―11）18 日本

得	【東ドイツ(身長)】			【日本】	得
0	ローデ	(185)	GK	福井	0
0	W・シュミット	(184)	GK	井藤	0
8	ドライプロート	(196)	FP	津川	1
1	ロスト	(183)	FP	蒲生	2
7	ヴァール	(190)	FP	池ノ上	6
2	ペスター	(180)	FP	山本	4
3	ローテ	(200)	FP	西山	3
2	ヘフト	(183)	FP	穂積	1
0	デーリング	(187)	FP	斉藤将	1
4	D・シュミット	(181)	FP	猪野	0
0	ヴィーゲルト	(186)	FP	志賀	0
1	クルーガー	(178)	FP	中本	0
28		(3)	PT	(2)	18

〇…それは〝魔の一瞬〟とでもいうほかなかった。

前半16分6―9の劣勢を立てなおし、互角の戦況に持ちこもうとした22分5秒、デーリングのシュートを阻もうと、一歩詰めた蒲生の顔面に、その強打がさく烈したのである。

両者の距離、わずか2メートル。頑健な蒲生もさすがにたまらず、崩れるように倒れ、そのまま病院へ運ばれてしまった。

しかし、日本は、そのあともよく戦った。

特に後半8分13―20と開かれながら9分山本のサイド攻撃を口火に、池ノ上の速攻、西山のジャンプショット、津川の中央突破などで20分18―21まで追いあげ、場内の大歓声をあびた。

だが、東ドイツは、日本がわずかにのぞかせた疲れを見逃さなかった。

GKシュミットがディフェンスを引き締めなおし、攻撃陣が早い仕掛けから射ちこんできたのだ。

日本は、防戦一方に追いこまれ

攻撃のチャンスをつかんでも、相手の壁を突破するだけの鋭さを欠き、20分以降、連続7失点と地力の差を見せつけられた。

攻防両面で、蒲生の欠場が響いたといえるが、やはり、東ドイツの総合力はすばらしいものがありGKシュミットが、前年のジャパン・カップの経験を活かし、全軍にアドバイスを与えていたのも、印象的であった。

それにしても日本は、立ちあがり、東ドイツの固さを突き、多彩な攻めで試合を進め、順調ならば勝てないまでも、勝負を後半なかばすぎまで持ちこたえられたろう

ティーデマン・東ドイツ監督も「10カ月前の全日本とは比べものにならぬ迫力」と賞した。

なお、蒲生は、医師の診断でこの大会中のカムバックは難しいとわかった。

ポーランド強引な攻撃

日本の第2戦、ポーランドとの試合は24日午後7時からブレーメン州営体育館で行われた。審判＝T・アンソンセン、O・ボルスタッド（ともにノルウェー）、観衆＝三千五百。

ポーランド 28（12−10／16−9）19 日本

○…日本のスターティングメンバーは大原、池ノ上、穂積、津川、斉藤将、斉藤幸、GK福井。

【日本】	得
GK 福井	0
GK 大畑	0
FP 津川	3
FP 関	1
FP 大原	3
FP 山本	6
FP 池ノ上	0
FP 斉藤将	0
FP 斉藤幸	3
FP 西山	1
FP 志賀	0
FP 穂積	2
PT （0）	19

【ポーランド】		得
GK スジムチャク	(195)	0
GK ミエンツス	(188)	0
FP ムロビック	(190)	2
FP クレムペル	(194)	8
FP ブルゾゾウスキー	(173)	1
FP バナス	(186)	0
FP ガウリック	(180)	2
FP ツルクジャンスキー	(192)	4
FP ワシケビッツ	(190)	3
FP イエドリンスキー	(180)	3
FP ジューバ	(192)	1
FP カルジンスキー	(192)	4
（3）		28

大原、斉藤幸は関（前半13分から出場）とともに、この試合のために温存されていたもの。日本の〝必勝〟の意気ごみを感じさせた。

しかし、ポーランドは、日本のクィック・プレーを計算ずみ、ディフェンスの早い詰めで、その動きを封じてきた。

そのため日本は、充分な態勢からシュートを射つことが難しく、10分までに山本の速攻で2点をあげただけ、3分にはストーリングを課せられるような〝攻めあぐみ〟だった。

ポーランドは、攻めても、日本の弱点を見抜き、長身者が切りこみながらシュートと見せてパスを廻し、これをポストのイエドリンスキーが巧みに活かすなどして10分6−1とリードを奪った。

日本がリズムに乗ったのは、このあとの約7分間。

山本―大原のスカイプレー成功や、西山のジャンプショットなどで5−8と差を詰めた。

しかし、ポーランドには余裕がある。エース・クレムペルがフランス国際の時（本誌204号参照）よりも、はるかに鋭い動きを示し、18分から連続6ゴールするなど、豪快な攻撃で、再び点差を開き、優位を保った。

後半、気をとりなおした日本は津川、穂積が交互にポイント、6分には大原が廻りこみながらのアンダーショットを見せ、11分16−19とした。

だが、日本の反撃は、ここまでが精いっぱい。ポーランドはツルジンスキーの突進とPTで加点し20分23−17、勝利を決定づけた。

日本は、よいところまで追いこむが、ある〝点〟で、その糸が切れ、再び相手ペースにされてしまう。ここらあたりのゲームスタミナ、展開力がヨーロッパ勢との決定的な差ではなかろうか。

日本、再三の反撃実らず

日本の第3戦、スイスとの試合は26日午後7時からキールのオストゼー・スポーツホールで行われた。審判＝P・スゼンドレイ、C・ソメジエ（ともにハンガリー）観衆＝六千五百。

スイス 18（9−7／9−8）15 日本

【日本】	得
GK 福井	0
GK 井藤	0
FP 津川	3
FP 関	0
FP 山本	3
FP 大原	0
FP 池ノ上	5
FP 斉藤将	0
FP 斉藤幸	1
FP 猪野	3
FP 志賀	0
FP 穂積	0
PT （3）	15

【スイス】		得
GK ルッツ	(195)	0
GK ヒューリマン	(185)	0
FP フェイグル	(185)	0
FP イエーレ兄	(188)	4
FP ナヒト	(193)	1
FP シャール	(196)	6
FP ブラッツアー	(183)	2
FP レーマン	(192)	3
FP フーバー	(177)	1
FP ヤメッティ	(192)	0
FP モール	(190)	0
FP イエーレ弟	(188)	1
（4）		18

○…ともに2敗、宿願の準決勝リーグ進出には、この一戦をどうしても勝ちとらなければいけない。六千を越す大観衆の声援は、ほとんど日本へのものだ。

しかし、その応援が選手に緊張をよんで4分50秒0−3という悪いスタート。

結果からいえば〝この3点〟が最後まで祟ることになる。

日本は7分ようやく池ノ上が中央から決め、津川の速攻なども加って14分3−4とした。

ここで守りが固まればよかったのだが、相手のクロス攻撃に連続して中央を割られ17分3−7。

前半終了間ぎわから猪野のカットインと3本のPTで追いあげ、後半6分8−9としたのだから、前半なかばすぎ守りでの粘りに欠けたのは惜しまれる。

『ハンドボール』

57年5月号（第207号）目次

【表紙写真】第10回世界男子選手権大会日本チームの熱戦ぶり

提供・㈱スポーツイベント

8－9と迫ったもののスイスには余裕がある。

しかも、日本は同点を意識しすぎてスタート時同ようの固さを示し、ここでまた連続3点を失なう。そのうち2本はPTによる、という拙さだ。

10分をすぎてからは一進一退、日本が僅かに差を詰め21分13－15とし、残り9分に興味をもたせる。

22分、スイスGKからのロングパスを穂積がカット、ドリブルで敵陣に持ちこみシュートという絶好機が、相手GKの美技で止められてから、再び流れがスイスに傾いた。

スイスはすかさずサイドからベテラン・フーバーがとびこんで16－13、日本も池ノ上のカットインで14－16とするが、スイスは、スローペースで逃げ切りを狙いはじめ、日本が3回の攻撃機会を落したこともあってこの策戦が奏効。26プラッアーのカットインで17－14とし、接戦にメドをつけた。

日本は、いちども先手をとれなかったのが敗因、充分勝てる相手だけに悔いを残しそうだ。

なお、池ノ上がこの試合で公式国際戦出場50回（史上13人目）。

▽このほかの試合

ポーランド 16（7－7、9－8）15 スイス

東ドイツ 16（7－6、9－8）14 スイス

東ドイツ 19（10－9、9－10）19 ポーランド

○…3試合とも力がこもった。国内事情で練習不足を伝えられたポーランドが一試合ごとに調子を整え、いかに桧舞台では精神力が必要かを教えた。

スイス戦は終盤12－13と苦しかったが逆転、東ドイツ戦はたえず先手をとられ、残り5分15－18とされながら粘り、引き分けに持ちこんだ。

結果からいうと、この一戦でポーランドは波にのり、東ドイツ（モスクワ・オリンピック優勝国）は、展開のリズムを狂わすことになる。

スイスの善戦も目立ったが、やはり総合力で一枚見劣りがした。

【順位】①東ドイツ2勝1分（得失点差12）②ポーランド2勝1分（10）③スイス1勝2敗④日本3敗

▽A組

西ドイツ 24（7－4、17－6）10 クウェート

ソ連 31（16－7、15－10）17 チェコ

ソ連 44（22－7、22－12）19 クウェート

西ドイツ 19（7－7、12－11）18 チェコ

チェコ 33（17－4、16－8）12 クウェート

ソ連 24（10－7、14－9）16 西ドイツ

【順位】①ソ連3戦全勝②西ドイツ2勝1敗③チェコ1勝2敗④クウェート3敗。

○…大会前、監督と主力選手のしょう突を起した王者・西ドイツは、4年前同よう、無名の若手を並べて臨み、クウェート、チェコに連勝したものの、ソ連戦は前半18分3－6、後半13分10－16と引き放される拙戦で、あっさり連覇の夢を捨ててしまった。

ソ連は攻守とも充実しきっており、3試合で99点を叩き出した多彩な攻撃力は際立っている。

チェコは西ドイツ戦を残り3分18－16とリードしながら引っくり返され、上位戦から脱落したのは惜しまれる。

▽B組

スペイン 19（11－6、8－9）15 アルジェリア

ハンガリー 20（10－5、10－15）20 スウェーデン

ハンガリー 30（15－10、15－10）20 アルジェリア

スペイン 23（14－7、9－13）20 スウェーデン

スウェーデン 31（11－5、22－10）15 アルジェリア

ハンガリー 20（11－11、9－9）20 スペイン

【順位】①スペイン2勝1分②ハンガリー1勝2分③スウェーデン1勝1分1敗④アルジェリア3敗

○…ダークホース揃いの組らしくスペイン、ハンガリーがともに無敗で準決勝リーグへ進出、アルジェリアがらみの試合を除いてはいずれもイキの抜けぬ接戦だった。

トップに立ったスペインは、これまでの巧さにパワーを加え、前評判に優るデキを見せたが、ハンガリー戦で再三の先行を、最後に追いつかれたように、守りの粘りが、やや足りない。

ハンガリーは、伝統(?)の引き分け試合をつづけ、スウェーデンは、スペイン戦の後半、思わぬもろさをのぞかせた。

▽D組

ユーゴ 38（23－12、15－9）21 キューバ

ルーマニア 20（11－8、9－10）18 デンマーク

ルーマニア 34（20－8、14－18）26 キューバ

デンマーク 19（8－11、11－7）18 ユーゴ

デンマーク 29（10－9、19－12）21 キューバ

ユーゴ 22（12－12、10－9）21 ルーマニア

【順位】①ルーマニア2勝1敗（得失点差1）②ユーゴ2勝1敗（0）③デンマーク2勝1敗（マイナス1）④キューバ3敗。

○…予想どおりの激戦。ルーマニア×デンマークは、ルーマニアが前半なかばすぎからリードを拡げていったが、デンマークも勝負を捨てず、後半9分10－15から一気のたたみかけで19分には16－17と予断を許さなくした。しかし、ルーマニアは、ここで貴重な2点をあげ、粘る相手を押し切った。

デンマーク×ユーゴは、デンマークが劇的な逆転勝ちを演じ、会場（ベルリン）を埋めた五千のファンを酔わせた。前半20分から優位を保っていたユーゴは残り5分18—16と安全圏に入ったとみえたが、デンマークは捨て身のプレス作戦を当てて同点、終了寸前ハットセンのゴールで勝利をもぎとった。

ユーゴ×ルーマニアは、ユーゴが前半18分8—4とリードしながら、ルーマニアの反撃を許し、後半5分には14—13と逆転された。あとのないユーゴは7分14—14としてから必死の攻撃を実らせ残り4分22—18、そのあと3点を失ったものの、なんとか逃げこんだ。



対クウェート戦シューターは池ノ上

13～16位決定リーグ

日本の第1戦（遠征第17戦）、キューバ（D組4位）との試合は28日午後4時からオスナブルック・スポーツホールで行われた。審判＝W・ヨセフ、R・レイベル（ともに西ドイツ）、観衆＝六百。

キューバ 25（1312—1010）20 日本

○…2カ月前のスペイン国際（本誌205号参照）で9点差の勝利を得ている日本だが、この日は3—3のあとから雲行きがあやしくなり、桧舞台で、相手の雪じょくを許してしまった。

得	【日本】	
0	福井	GK
0	井藤	GK
0	津川	FP
4	池ノ上	FP
4	山本	FP
5	大原	FP
4	穂積	FP
2	西山	FP
0	猪野	FP
1	斉藤幸	FP
0	中本	FP
0	志賀	FP
20	PT (1)	

得	【キューバ】		
0	キャサレス	(187)	GK
0	フェントス	(194)	GK
3	カスソー	(195)	FP
0	ミランダ	(190)	FP
8	マルケス	(185)	FP
1	メディナ	(185)	FP
0	スチブンセン	(187)	FP
4	ネニンゲル	(192)	FP
1	イラネス	(189)	FP
5	クエレル	(188)	FP
2	プレンデス	(189)	FP
1	ポベア	(196)	FP
25	(3)		

日本の崩れは、守りの悪さというより攻めの乏しさにある。6分から実に10分間ノーゴールなのだ。この間にキューバは、エース・カスソーの着実なシュートとクエレルの巧技などで4点をマーク、主導権を握った。

日本はそれでも20分すぎ好テンポとなって8—9まで詰め寄るのだが追い越すまでには至らず、相手リードで前半を終えた。

後半、日本は穂積、池ノ上、山本で8分13—14、スペインでの自信を甦えらすかと思えたが、そのあと5分間に4失点、再び突き放される拙戦を演じる。

この大会、日本の＜負けパターン＞は、つねにこれだ。先手をとられ、追いつき、そして突き放される……。要所でのディフェンスにもろさがあるのと同時に、追撃が逆転まで持ちこむ迫力を伴わないのだ。16分15—20のあとは、完全にキューバペース。

日本は残り5分から大原の連続ゴールで、必死の反撃を試みるが29分20—24まででとどかず、まさかと思った敗戦で「13位」のランクも難しくなった。

アメリカ大陸代表が世界選手権で勝利を得たのは、男女を通じてこれが初めて。

ようやく勝利、クウェート降す

日本の第2戦、クウェート（A組4位）との試合は3月1日午後7時30分からハルテルン・スポーツホールで行われた。審判＝P・スゼンドレイ、C・ソメジエ（ともにハンガリー）観衆＝約九百。

日本 31（1813—1010）20 クウェート

得	【クウェート】		
0	ファラジ	(175)	GK
0	カミス	(178)	GK
0	ファウジ	(183)	FP
9	ハシム	(193)	FP
0	アドナム	(181)	FP
2	マジド	(177)	FP
5	A・アジス	(180)	FP
0	エスマイル	(175)	FP
0	モハムド	(168)	FP
1	ガリール	(183)	FP
0	サレ	(184)	FP
3	モサエド	(173)	FP
20	(1)		

得	【日本】	
0	福井	GK
0	井藤	GK
0	津川	FP
4	関	FP
5	池ノ上	FP
7	山本	FP
2	大原	FP
4	西山	FP
2	猪野	FP
4	斉藤幸	FP
3	斉藤将	FP
0	中本	FP
31	(1) PT	

○…1年前、不本意な負けかたをしているクウェートとの対戦（本誌194号参照）。

しかも、クウェートは、この大会に50人をこすデレゲーションを送りこみ＜アジア・ナンバーワン＞を誇示していた。日本としては負けられぬ一戦で10分5—2と好スタートを切った。

ところが、ディフェンスのデキが、この試合ももう一つ冴えないハシムの強引なシュートを簡単に許すなどして12分5—5と並ばれ前半26分まで6回同点というせりあいになった。

しかし、28分山本の単身速攻から日本は目が覚め、斉藤幸、山本とたたみかけ、初の3点リードで前半を終えた。

後半も日本は好リズムを保ち、山本、池ノ上、関と矢継ぎ早にゴールを決め、その後も池ノ上のロング、大原、西山の活躍で着々と加点、17分14—12と開いて大勢を決めた。

日本は、けして好内容の勝利とはいえなかったが、ともかく土たん場にきて片目があいた。

なお、中本がこの試合で公式国際戦出場50回（史上14人目）。

山本、劇的な決勝シュート

日本の第3戦、アルジェリア（B組4位）との試合は3日午後7時30分からウンナのハルヴェグス

ポーツホールで行われた。審判＝W・アクゼウスキー、Z・イエジオルニイ（ともにポーランド）、観衆＝七百三十。

日本 22（11 11—10 12）22 アルジェリア

【アアルジェリア】		得
GK メカウ	(180)	0
GK バキル	(175)	0
FP ベンハムサ	(180)	2
FP ハミシェ	(190)	9
FP ベンセムラ	(190)	0
FP ボーハリサ	(172)	1
FP アゼブ	(180)	2
FP ドボレー	(176)	2
FP メクナセ	(178)	5
FP アブディ	(176)	0
FP ヘブリ	(174)	0
FP ベンマクソーラ	(176)	0
PT	(2)	21

得	【日本】	
0	福井	GK
0	井藤	GK
1	津川	FP
10	山本	FP
0	池ノ上	FP
0	志賀	FP
4	斉藤幸	FP
1	大原	FP
2	斉藤将	FP
1	西山	FP
0	猪野	FP
3	関	FP
22	(4)	PT

○…残り3秒あったかどろか。引き分け寸前に山本が渾身のミドルシュートを放つと、これが鮮やかに決まり、日本は辛くも2勝目をあげて14位を確保した。

日本は、組し易いとみたアルジェリアにいきなり2点を奪われ、ペースを見失い、前半再三の先行も、すぐに追いつかれ、残り10秒11—11からメクナセのアンダーシュートで12—11とされた。

後半13分、日本は14—16と2点差をつけられ、そのあとストーリングを課せられるなど、悪いムードだったが、15分山本、16分関と二本の速攻でイキを吹き返した。

このあと津川の巧技、21分PT（山本）でようやくリズムをつかみ、23分いちどはタイ（18—18）とされたが、すぐに関のジャンプでリード。苦しみながらも勝利を握るものと思えた。

ところがアルジェリアも力をあげている。26分エース・ハミシェで19—19、27分メクナセで逆転してみせたのである。

この反発に驚きながらも日本は27分30秒斉藤幸—山本のクロスで20—20、さらに1分後、山本がサイドから突いて21—20、今度こそ逃げこみとみえた。

しかし、アルジェリアは29分30秒、FTからメクナセが強シュートを決め21—21。

日本ボールとなった時の残り時間は21秒。じっくりと廻しながらラストチャンスを狙い、公式計時員が終了を告げようとする直前、山本にボールを渡し、サヨナラシュートへと結びつけた。

▽このほかの試合

クウェート 22（14 8—11 9）20 アルジェリア

キューバ 21（9 12—8 13）21 アルジェリア

キューバ 34（18 16—18 12）30 クウェート

【順位】⑬キューバ2勝1分⑭日本2勝1敗⑮クウェート1勝2敗⑯アルジェリア1分2敗。

対アルジェリア戦。シューターは猪野

招待試合で勝利　世界選手権の全日程を終えた全日本男子は、3月5日午後7時からノルデンハムの中央スポーツホールで行われた招待試合に出場、SV・ノルデンハム（西ドイツ）と対戦（遠征第20戦）した。

日本 28（14 14—9 9）18 SV・ノルデンハム

【S・V・N】	得
GK クプケル	0
GK ウエールケン	0
FP コスニッケ	4
FP ストレフロウ	0
FP フリーゼ	0
FP ストッケル	0
FP ディーケルト	1
FP ジンマーマン	9
FP ラヒニット	1
FP ギルデハウス	3
FP ハーゼ	0
FP ケステル	0
(5)	18

得	【日本】	
0	井藤	GK
0	大畑	GK
5	山本	FP
2	関	FP
3	長野	FP
6	西山	FP
3	猪野	FP
3	辻本	FP
3	大原	FP
1	穂積	FP
1	斉藤幸	FP
1	志賀	FP
28	(4)	PT

◇日本このほかの出場者▽FP、中本、津川。

荒川清美団長の話　あわよくば6位を狙った大会だが、予選リーグ3連敗が誤算となり、申しわけない結果に終った。蒲生君の負傷は敗因の一つだが、「14位」の云いわけにはならない。スイスにせり負けたように、日本は要所での集中力が欠けた。

準決勝リーグ

▽1組

ソ連 23（13 10—7 7）14 スイス

西ドイツ 18（9 9—8 9）17 ポーランド

チェコ 24（11 13—10 11）21 東ドイツ

ソ連 27（14 13—8 13）21 ポーランド

東ドイツ 19（10 9—8 8）16 西ドイツ

チェコ 17（9 8—7 10）17 スイス

ソ連 25（11 14—8 9）17 東ドイツ

西ドイツ 16（8 8—10 6）16 スイス

ポーランド 24（9 15—14 9）23 チェコ

▽予選リーグ適用の試合

ソ連 31—17 チェコ

西ドイツ 19—18 チェコ

ソ連 24—16 西ドイツ

ポーランド 16—15 スイス

東ドイツ 16—14 スイス

東ドイツ 19（分）19 ポーランド

【順位】①ソ連5戦全勝②ポーランド2勝1分2敗（得失点差マイナス5）③東ドイツ2勝1分2敗（マイナス6）④西ドイツ2勝1分2敗（マイナス9）⑤チェコ1勝1分3敗⑥スイス2分3敗

ユーゴ、奇跡を呼びこむ

▽2組

デンマーク 23（9−8、14−14）22 スペイン
ルーマニア 31（18−13、13−11）24 スウェーデン
ハンガリー 20（7−8、13−12）20 ユーゴ
ユーゴ 28（17−13、11−12）25 スペイン
ルーマニア 24（12−8、12−11）19 ハンガリー
デンマーク 21（10−11、11−9）20 スウェーデン
スペイン 22（12−13、10−7）20 ルーマニア
ユーゴ 30（15−10、15−9）19 スウェーデン
デンマーク 19（11−10、8−9）19 ハンガリー

▽予選リーグ適用の試合

ハンガリー20（分）20スウェーデン
スペイン23−20スウェーデン
ハンガリー20（分）20スペイン
ルーマニア20−18デンマーク
デンマーク19−18ユーゴ
ユーゴ22−21ルーマニア

【順位】①ユーゴ3勝1分1敗（得失点差14）②デンマーク3勝1分1敗（1）③ルーマニア3勝2敗④スペイン2勝1分2敗⑤ハンガリー4分1敗⑥スウェーデン1分4敗。

○…決勝進出を目指すベスト12の激突は、さすがに興奮のドラマの連続だった。

1組では、西ドイツがついにオリンピック出場権をも失なう4位に落ち、ステンツェル監督を非難する声が協会とチームを包んだ。

誤算はスイス戦。残り1分16−15のあとマイボールで、逃げ切り確実と思われながら、不用意のパスをインターセプトされ、あと18秒という時点で16−16、勝利を逃したことにあった。

西ドイツの低調を尻目にソ連は独走といってもよい勝ちっぷり。

対抗とみられた東ドイツは、チェコ戦を落としてしまい、ずるずると得退。対照的だったのはポーランドで、最後のチェコ戦を激戦の末に降して、得失点差で2位に浮上の幸運をつかんだ。

○…2組は史上に記憶されるべきフィナーレとなった。

最終日を前にルーマニア、デンマークが勝ち点6、ユーゴが同5で追い、1位はこの三者にしぼられた。

最終日のカードはルーマニア×スペイン、デンマーク×ハンガリー、ユーゴ×スウェーデン。

〝三強〟とも充分に勝算をはじける相手で、ルーマニアの決勝進出濃厚になっていた。

ところが、そのルーマニアが、まっさきに敗れたのだ。

序盤の失敗が最後までたたり、血相をかえての反撃も後半29分20−21、そのあとダメ押しの1点を奪われる拙戦を演じた。

これでイキを吹き返したユーゴは、難なくスウェーデンを突き放し、デンマーク×ハンガリー戦に〝すべて〟がかかった。

デンマークは好調に試合を進め後半24分19−17とし、15年ぶりの決勝進出を手中にしかけた。

しかし、どうしてもとどめの1点をとれないでいる間に、巧者ハンガリーに粘りつかれ、26分19−18、27分19−19とされて、引き分けに持ちこまれてしまった。

これで前夜の順位は一変し、ユーゴ、デンマーク、ルーマニアとなり、三番手・ユーゴの奇跡的な決勝進出が決まったのである。

ルーマニアにとってはこれ以上ない〈悪夢〉といえる。

順位決定戦

11・12位決定戦、スウェーデン×スイスは3月7日午前10時からミンデンスポーツホールで行われた。審判＝P・ラツウフス、R・ブクダ（ともに東ドイツ）、観衆＝千七百

スウェーデン 25（15−12、10−5）17 スイス

◇得点者【スウ】ニールスン7、ショーグレン6、アブラハムソン4、ベントソン、ラスミューゼン各3、マグヲッセン、フライドパル各1

【スイ】イエーレ兄3、ナヒト、シャール、フーバー、イエーレ弟モール、プラッツアー各2、フェイグル、ヤメッティ各1。

ハンガリーは9位に

9・10位決定戦、ハンガリー×チェコは7日正午からミンデンスポーツホールで行われた。審判＝G・ヒュッヘルト、V・ノレク（ともに西ドイツ）、観衆＝千七百

ハンガリー 24（8−11、16−7）18 チェコ

◇得点者【ハ】コバクス、ケニエルス、コクシス各5、レレ、スザボ各3、ホルバス2、ギュルカ1。

【チ】スルック6、パピエルニク4、パピック、チェルニ、ベルナルト各2、リスカ、ポリフカ各1

西ドイツ7位、スペイン8位

7・8位決定戦、西ドイツ×スペインは7日午後4時からドルトムントのウエストハーレンホールで行われた。審判＝F・ロディルK・オールセン（ともにデンマーク）、観衆＝一万二千。

西ドイツ 19（11−6、8−9）15 スペイン

◇得点者【西】フライスラー6、スプリンゲル、ホーメル各3、ヴンダーリッヒ、ボイク各2、グナウクーニッヒ、ハルテイング各1。

【ス】ウリア5、P・ロペス4、セルラーノ2、ムニヨス、ノボアB・ロペス、パルリーラ各1。

ルーマニア、東ドイツ制す

5・6位決定戦、ルーマニア×東ドイツは6日午後4時30分からドルトムントのウエストハーレンホールで行われた。審判＝G・ハウトブラケン、J・ヌッセル（ともにオランダ）、観衆＝約三千五百。

ルーマニア 24（12 12 ｜ ｜ 11 10）21 東ドイツ

得	ルーマニア（身長）		東ドイツ	得
0	ムンテアヌ（188）	GK	W・シュミット	0
0	レドル（186）	GK	ローデ	0
2	M・ドミトル（196）	FP	ドライブロート	0
0	G・ドミトル（189）	FP	ロスト	3
10	スティンガ（188）	FP	ヴァール	3
2	グラボフスチー（196）	FP	D・シュミット	1
4	バシルカ（185）	FP	クルーガー	7
2	フォルカー（195）	FP	ペスター	1
4	ドラウ（180）	FP	ヴィーゲルト	4
0	ボワナ（186）	FP	ヘフト	0
0	ドラガニータ（188）	FP	ローテ	2
0	ベディバン（195）	FP	ピソオール	0
24	（2）	PT	（2）	21

○…ルーマニアは前半25分9－9から相手の反則退場のスキをついて速攻、先行に成功した。

後半開始直後、ルーマニアはさらにこのリードを活かし5分14－10と主導権を握った。

追撃を焦った東ドイツの射ち急ぎを防いで好機をつかむあたりにルーマニアの伝統的な巧さが秘んでいた。

東ドイツは戦り8分16－23と開かれて、戦意をなくした。

デンマーク惜しくも4位

3・4位決定戦、ポーランド×デンマークは6日午後6時30分からドルトムントのウエストハーレンホールで行われた。審判＝S・セルバン、M・マリン（ともにルーマニア）、観衆＝五千。

ポーランド 23（11 12 ｜ ｜ 9 13）22 デンマーク

得	ポーランド		デンマーク	得
0	スジムチャク	GK	M・イエップセン（187）	0
0	ミエンツス	GK	ホルム（186）	0
7	クレムベル	FP	ロエブストルフ（188）	1
4	バナス	FP	ニールセン（187）	2
1	カルジンスキー	FP	ラスミューゼン（196）	3
5	ガウリック	FP	B・イエップセン（176）	2
0	ブルゾゾウスキー	FP	モーラー（188）	3
3	ツルクジャンスキー	FP	クリステンセン（192）	4
2	ワシケビッツ	FP	ハウルム（185）	4
0	イエドリンスキー	FP	ストローエム（192）	3
0	ガルピエル	FP	スカーラップ（200）	0
1	ムロピック	FP	グルーベル（185）	0
23	（2）	PT	（3）	22

○…押しまくられていたポーランドが、後半20分20－20に追いつき、場内のエキサイトは、異様なほどに高まった。

しかし、そのあともデンマークが21－20、22－21とつねに先行、勝利を握るかとみえたのだが、ポーランドは28分22－22としたあとデンマークの反則退場からチャンスをつかみ、残り24秒、ワシケビッツがサイド攻撃を成功させ、初の3位入賞を感激のうちに飾った。

60分間の99％を有利に進めていたデンマークには信じられない幕切れだろう。



対アルジェリア戦。シューターは大原

決勝戦

ソ連×ユーゴの初顔合せにより7日午後6時からドルトムントのウエストハーレンホールに超満員一万二千五百の大観衆を集めて行われた。審判＝T・アンソンセン、O・ボルスタッド（ともにノルウェー）。

ソ連 30（6 1 ： 11 12 ｜ ｜ ： ｜ ｜ 4 0 ： 11 12）27 ユーゴ

得	ソ連（身長）		ユーゴ（身長）	得
0	スチペンコ（197）	GK	パシッチ（188）	0
0	イチエンコ（195）	GK	ベリッチ（194）	0
3	ベロフ（195）	FP	グルビッチ（189）	2
3	ガギン（198）	FP	エレゾビッチ（193）	4
5	キジャエフ（175）	FP	ゾフコ（182）	3
2	リマノフ（197）	FP	ユリナ（193）	5
0	クシュニリュク（200）	FP	ブジョビッチ（197）	2
2	カルシャケビッチ（184）	FP	ボヨビッチ（186）	2
5	アンピロゴフ（203）	FP	ラジエノビッチ（194）	0
4	バシリエフ（199）	FP	イサコビッチ（185）	2
5	シェラゾフ（180）	FP	クリホカビッチ（192）	2
1	ノビツキー（184）	FP	フェズーラ（185）	5
30	（2）	PT	（1）	27

○…近着のIHF（国際ハンドボール連盟）広報は、この試合を次のように評している。

「ソ連×ユーゴの優勝争いは、一言でいうなら夢のような試合であり、永遠に忘れることのできない試合であった。

一万二千の大観衆は、表彰式後も、まだその場にとどまり、勝者と敗者に大かっさいを贈って、この決勝戦を祝福した。」

○…正にその通りの試合だった。五いに持ち味を出しつくし、前半、ソ連が3点リード（10－7）しても、後半ユーゴが2点リード（17－15）しても、すぐ盛り返された。しかし、残り8分、ユーゴが22－20とした時は、大観衆も、その有利を疑わなかったものだ。

だが、ソ連は残り4分22－22と粘りつき、スタンドは、改めて、その強さに舌をまいた。ユーゴは28分10秒エンゾビッチで23－22、今度こそソ連に止めを刺したと思えた。ところが、またしてもソ連は甦える。29分5秒パシリエフ－ルマノフのサインプレーを決めて23－23としたのだ。恐るべき力、驚くべき勝利欲。

○…残り50秒は歓声というより悲鳴の中で進められた。こんな興奮、こんな戦りつの試合が過去にあっただろうか。両軍選手の表情は鬼気迫るものがあり、そのままタイムアップの笛を聞いた。

60分間の死闘に比べると延長戦の展開は卒直にいって緊迫感さえ残されたものの大味な内容だった。

それは先行を許したユーゴがプレス気味のディフェンスを布き、ソ連の激しい動きにあっさり崩されたからだ。明きらかにそれはスタミナの差であった。キジャエフの疲れを知らぬドリブルワークを軸に、ソ連は26－23、27－24、28－25、29－26と三点差をキープ、ユーゴを突き放したのである。

■全日本女子ヨーロッパ遠征

アジアの王座奪還に燃えて

「5月開催」が濃厚になっている第8回世界女子選手権アジア地域予選に備えて全日本女子が、昨秋につづく今年度2回目のヨーロッパ遠征を行い、本場の代表的トーナメント「第13回東ドイツ国際・ニュウブランデブンルグトーナメント」に出場したほか、チェコフランスへ転戦、大きな収穫をあげてきた。

全日本女子が、1年度内に2度のヨーロッパ遠征を行うのは、史上初めてで、アジア・ナンバーワンの座奪還に燃える日本協会の意欲を物語るものといえた。

全日本女子は、このあと、今回とほぼ同一メンバーで、中国遠征を行なった。

全日本女子欧州遠征選手団

- 団長兼監督　鈴木　義男（日本協会強化委員）
- コーチ　緒方　嗣雄（日本協会強化コーチ）
- コーチ　井　　蕉（日本協会強化委員）
- コーチ　谷口　俊郎（日本協会強化コーチ）

GK	①井村文光子	(22才	・立石電機)	170cm	⑭
	⑫矢部登茂子	(22	・ジャスコ)	172	⑯
FP	②大高　良子	(22	・日立栃木)	174	
	③紀野奈々美	(26	・立石電機)	165	㉚
	④横山　澄江	(24	・ジャスコ)	159	⑧
	⑤西　　典子	(24	・大崎電気)	168	⑫
	⑥桑原　広子	(23	・立石電機)	163	⑩
	⑦姫野五十鈴	(23	・立石電機)	154	⑪
	⑧石井美沙子	(22	・大崎電気)	167	⑦
	⑨辻本　典子	(23	・ジャスコ)	167	⑤
	⑩羽立　節子	(23	・立石電機)	159	⑩
	⑪薮田　典子	(22	・立石電機)	165	⑩
	⑬加藤　典代	(22	・日体大)	165	⑧
	⑭増永真奈美	(21	・ブラザー工業)	158	⑧
	⑮寺沢　路子	(19	・ジャスコ)	167	③

- 左欄○内数字は今回の背番号
- 右欄○内数字は今大会終了現在の公式国際戦出場回数

東ドイツ国際

東ドイツ女子国際・第13回ニュウブランデンブルグトーナメントは3月9日ニュウブランデンブルグ市営ホールで開幕。

予選リーグ1組に加った日本の第1戦（遠征第3戦）は、9日午後6時45分からハンガリーと行われた。審判＝ヴェーネル、ラムプ（ともに東ドイツ）、観衆＝八百七十一。

ハンガリー 25（11－10、14－6）16 日本

【日本】		得
GK	井村	0
	矢部	0
FP	紀野	0
	横山	3
	西	7
	増永	3
	姫野	2
	薮田	1
	羽立	0
	加藤	0
	石井	0
	寺沢	0
	PT	(4) 16

【ハンガリー】		得
GK	ラッツ	0
	ジョルバリ	0
FP	クサイボク	2
	オルバン	0
	クラメール	6
	ゴドル（ナジ）	6
	ギョルジイ	2
	パロー	2
	アンギャル	0
	ゴムバイ	2
	バルナ	1
	ヤコブ	4
	PT	(4) 25

○…180cm台5人を揃えるハンガリーは、来年の世界女子選手権を自国に招くとあって、いちだんと攻守に厚味を増し、日本はあっさり、前半で勝負を決められてしまった。

後半になり、ようやく雰囲気にもなれ、増永の速攻などでポイントをあげた日本だが、前半の大差を挽回するには程遠かった。

前半の食い下り空し

日本の第2戦・東ドイツとの試合は10日午後5時から行われた。審判＝アストリョーム、ダルストリョーム（ともにスウェーデン）、観衆＝八百九十。

東ドイツ 34（17－8、17－12）20 日本

【日本】		得
GK	井村	0
	矢部	0
FP	紀野	0
	薮田	5
	姫野	2
	羽立	0
	西	6
	横山	5
	加藤	1
	増永	1
	石井	0
	寺沢	0
	PT	(3) 20

【東ドイツ】		得
GK	ヴォルフ	0
	ピッケン	0
FP	クルーガー	3
	フーブシェル（マッツ）	4
	ロスト	3
	ウーリッヒ	5
	ブンデルリッヒ	5
	キルシュケ（ローテル）	4
	クニッシュ	7
	ベルナー	2
	シュルツ	1
	ニューロール	0
	PT	(3) 34

○…3年ぶりの顔合せ。東ドイツはすっかりメンバーが代り、若さを感じさせる。

日本も、コンビネーションのとれた攻撃が再三にわたって成功、激しい射ち合いを演じた。

後半の立ちあがりで、2～3点差に追いこめばという策戦だったが、逆に反則退場のスキをつかれて連続失点、守りのもろさを露した。

ブルガリアから勝利奪う

日本の第3戦・ブルガリアとの試合は11日午後3時から行われた。審判＝ゲンツ、グラスラー（ともに東ドイツ）、観衆＝二百九十。

日本 20（11－8、9－10）18 ブルガリア

【日本】		得
GK	井村	0
	矢部	0
FP	紀野	2
	桑原	0
	姫野	0
	羽立	2
	薮田	4
	西	4
	横山	4
	石井	0
	加藤	0
	増永	4
	PT	(5) 20

【ブルガリア】		得
GK	トリフォノーバ	0
	デネーバ	0
FP	ワシレーバ	3
	ニコローバ	3
	ガラボーバ	2
	トンシェーワ	2
	ワトーバ	2
	チョボーバ	1
	カラカセーワ	5
	ビトーバ	0
	マリノーバ	0
	マルコーバ	0
	PT	(2) 18

○…日本が東ヨーロッパ勢を降したのは16年前のポーランド戦（第3回世界女子選手権）以来のことだ。

日本の立ちあがりはほめられたものではなく、凡ミスから相手の逆襲をうけ苦しい展開になった。

しかし、薮田、西らの思い切りのよいシュートと、増永、横山の巧技で、なんとか射程圏内に相手をとらえていたのが、結果的にはよかった。

後半いちちは4点差（10－14）をつけられる場面もあったが。20分すぎ4点連取という会心の攻撃で一気に主導権を握り、初勝利へ突っ走った。

攻めの好調から守りにリズムがでたのが勝因だが、終盤、一本のPTを阻止したGK井村の美技も見落すわけにはいかない。それにしても嬉しい結果だった。

▽1組このほかの結果

東ドイツ 33（20－9、13－4）13 ブルガリア

ハンガリー 29（11－9、18－10）19 ブルガリア
東ドイツ 26（13－16、13－6）22 ハンガリー

【順位】①東ドイツ3戦全勝②ハンガリー2勝1敗③日本1勝2敗④ブルガリア3敗。

▽予選リーグ2組

ユーゴ 30（15－10、15－10）20 B東ドイツ
ソ連 21（12－9、9－11）20 チェコ
ユーゴ 29（11－9、18－10）19 チェコ
ソ連 27（14－9、13－10）19 B東ドイツ
B東ドイツ 23（14－12、9－10）22 チェコ
ユーゴ 27（14－10、13－8）18 ソ連

【順位】①ユーゴ3戦全勝②ソ連2勝1敗③東ドイツB1勝2敗④チェコ敗。

もつれあった順位決定戦

5～8位決定戦にまわった日本の第1戦（遠征第6戦）、チェコとの試合は13日午前10時から行われた。審判＝ラムプ、グラスラー（ともに東ドイツ）、観衆＝二百三十五。

チェコ 30（15－11、15－10）21 日本

○…今回の遠征で3度目の顔合せ。手の内が分かっているだけになんとか勝ちたかったが、要所でやはりディフェンスが乱れ、後半19－23まで迫りながら、あと一歩

得	【チェコ】		【日本】	得
0	オレイニコーバ	GK	井村	0
0	フラドスカ	GK	矢部	0
3	ノパコーバ	FP	紀野	1
3	ノボサドーバ	FP	横山	5
4	ベノーバ	FP	西	5
4	オパチータ	FP	桑原	1
0	ビラゴーバ	FP	姫野	3
2	ガブローバ	FP	羽立	1
5	ザボドナ	FP	藪田	1
3	デュリシノーバ	FP	加藤	0
3	ネメトーバ	FP	増永	3
3	ボコローバ	FP	寺沢	1
30	（8）	PT	（4）	21

がなく、終盤は再びチェコの攻撃をうけて押し切られた。日本は9本のPTのうち、5本を失敗したのも善戦できぬ一因であった。

◇

日本の第2戦、東ドイツBとの試合は14日午前11時30分から行われた。審判＝ダルストリョーム、アストリョーム（ともにスウェーデン）、観衆＝二百七十。

B東ドイツ 27（12－8、15－11）19 日本

得	【東ドイツB】		【日本】	得
0	ブッヒン	GK	井村	0
0	グロブマン	GK	矢部	0
5	クヌプフェル	FP	紀野	3
2	ラスト	FP	西	3
0	グンセール	FP	横山	1
2	ネーリング	FP	藪田	6
1	カンプ	FP	増永	2
3	ワグネル	FP	加藤	0
5	ラスブリュット	FP	桑原	0
1	ニンデル	FP	石井	1
3	ニッシュケ	FP	羽立	0
5	ノアク	FP	寺沢	3
27	（2）	PT	（5）	19

○…21才～18才までのホープで固めた東ドイツBは、各選手が、こうした大会を機に、シニアのコーチングスタッフに認めてもらおうと張り切る。

いささか疲れののぞく日本とでは意気ごみが違いすぎ、10分2－8と引き放されたまま、最後まで東ドイツペースで試合が進んだ。

▽5～8位決定リーグこのほかの試合

チェコ 24（15－10、9－10）20 ブルガリア
ブルガリア 23（11－10、12－9）19 B東ドイツ

日本×ブルガリア、東ドイツB×チェコは予選リーグの記録を適用。

【順位】⑤東ドイツB2勝1敗⑥チェコ2勝1敗⑦日本1勝2敗⑧ブルガリア1勝2敗

東ドイツ、声援に応える

▽決勝リーグ

ソ連 22（11－14、11－6）20 東ドイツ
ハンガリー 28（12－11、16－10）21 ユーゴ
ソ連 24（14－11、10－13）24 ハンガリー
東ドイツ 24（12－7、12－9）16 ユーゴ

東ドイツ×ハンガリー、ソ連×ユーゴは予選リーグの記録を適用

【順位】①東ドイツ2勝1敗②ハンガリー1勝1分1敗③ソ連1勝1分1敗④ユーゴ1勝2敗

○…予選リーグで精彩を欠いていたソ連が奮起、東ドイツを制しハンガリーと引き分けたため、見応えのある上位戦となった。

結果的には、東ドイツが地元の声援に応えるところとなったが、4カ国の主力選手の織りなす個人技と組織攻撃は、スピード、迫力とも満点、見学の日本選手はすべてのプレーにうなるばかりだった

鈴木義男監督の話 これだけの顔ぶれにはさまれ試合をできた経験はなにものにもかえがたい。

ブルガリアにせり勝ったこともこのあと大きな自信になるだろうし、東ドイツ戦も、まずまずのデキだった。

ディフェンスに課題は残っているが、アジア予選への見通しは一応ついたと思う。

それにしても、大会の運営、雰囲気は最高のものがあり、改めて東欧における女子ハンドボールの位置の高さを認識した。

個人得点10傑

順位	選手	国	得点
①	ゴドル	（ハ）	47
②	メルダン	（ユ）	45
③	ワグネル	（B）	30
④	クルーガー	（東）	28
⑤	デュリシノーバ	（チ）	26
⑥	西典子	（日）	25
⑥	キルシュケ	（東）	25
⑧	ワトーバ	（ブ）	24
⑨	クニッシュ	（東）	23
⑩	フーブシェル	（東）	22
⑩	カラカセーワ	（ブ）	22

チェコ・フランス

遠征第1戦は、3月5日午後7時からチェコのジチン・スポーツホールでチェコ・ナショナルとの間に行われた。審判＝J・アンブラス、V・フォルマネク（ともにチェコ）、観衆＝約三百。

チェコ 32（16－10、16－8）18 日本

得	【チェコ】		【日本】	得
0	フラドスカ	GK	井村	0
0	チュルペコーバ	GK	矢部	0
5	ノパコーバ	FP	紀野	0
5	ベノーバ	FP	横山	0
0	ビラゴーバ	FP	西	7
4	ガブローバ	FP	桑原	3
5	ボコローバ	FP	姫野	0
0	オパチータ	FP	石井	0
9	デュリシノーバ	FP	羽立	2
1	ブレザニューバ	FP	藪田	4
0	ネメトーバ	FP	加藤	0
3	ザボドナ	FP	増永	2
32	（4）	PT	（3）	18

◇

第2戦は3月7日プラハ近郊の体育研究所スポーツホールでチェコナショナルと行われた。（相手メンバーは不明）。

チェコ 28（16－10、12－12）22 日本

	【日本】	得
GK	井村	0
GK	矢部	0
FP	紀野	1
FP	西	9
FP	桑原	1
FP	横山	3
FP	姫野	0
FP	藪田	5
FP	加藤	2
FP	増永	1
FP	石井	0
FP	羽立	0
PT	（6）	22

訪仏第一戦を飾る

フランスでの第1戦（遠征第8戦）は、16日午後7時からドルースポーツパレスでフランス・ナショナルと行われた。審判＝ルッス、リラルジェ（ともにフランス）観

衆八百。

日本 24（11-10、13-10）20 フランス

得	【フランス】		【日本】	得
0	ブールザウ	GK	井村	0
0	ブリゴー	GK	矢部	0
5	ジャッケス	FP	藪田	4
1	パルフール	FP	西	6
1	ラガリーグ	FP	横山	0
4	ラベゴール	FP	辻本	3
1	パイレ	FP	増永	3
1	マゼネバッハ	FP	桑原	0
6	マルティン	FP	羽立	4
0	ペレオール	FP	加藤	2
0	パラ	FP	石井	1
1	マレール	FP	寺沢	1
20	（5）	PT	（7）	24

◇

遠征第9戦は17日午後8時30分からトロイエ・オムニ・スポーツホールでフランス・ナショナルと行われた。審判＝タンクレーズ、レロン（ともにフランス）観衆＝約一千。

フランス 30（15-7、15-11）18 日本

得	【日本】		【フランス】	得
0	井村	GK	ブリゴー	0
0	矢部	GK	ブールザウ	0
3	横山	FP	ジャッケス	6
6	西	FP	アルディイ	2
4	藪田	FP	マレール	3
3	辻本	FP	ラベゴール	3
0	桑原	FP	マゼネバッハ	4
1	姫野	FP	パラ	2
0	石井	FP	フェレオール	1
1	加藤	FP	パイレン	1
0	増永	FP	マルティン	8
0	羽立	FP	パルフール	0
18	（3）	PT	（3）	30

トピックス

立石電機にユーゴ二選手加入

日本リーグ（女子）の立石電機（熊本）は、4月16日大阪で記者会見し、6月12日に開幕する第7回日本リーグから、ユーゴ籍の2選手を加入させることになった、と発表した。

立石入りするのは、元ユーゴ・ナショナルのカティツア・イレシュ（36才、178㎝、64㎏）とドルベェニャク・ベリツア（31才、175㎝、67㎏、左腕）で、6月上旬に来日ただちに実戦へ登場の予定である。

イレシュは、一九六六年、20才の時にユーゴ・ナショナルのメンバーとなり、モスクワ・オリンピックまでの十四年間、ユーゴを代表する名手として鳴らした。

特に七三年の世界女子選手権で優勝メンバーとなり、モスクワ・オリンピックでは銀メダルを獲得するなど、現代最高の女子プレイヤーとして勇名をはせた。モスクワでは主将をつとめており、二〇一回という公式国際戦出場は、日本の女子界に、すべての面で貢献することになろう。

ベリツアは、イレシュほどの栄光はないが、左腕アタッカーとして七五年にナショナルチームに加わり、11試合を経験している。

イレシュは、1部の名門クラブ「RK・オシェイク」、ベリツアは2部リーグ「ノビサッド・SC」の現役メンバーで今シーズンスも活躍しており、コンディションなどに問題はなさそうだ。

また、両選手とも年令的な高さが気になるが、ヨーロッパの女子選手としては〝常識〟的なものであり、立石・井薫監督も「まったく不安はない」といっている。

日本リーグは、規定で1チーム3名までの外国人選手の登録を認めており、すでに大崎電気女子（埼玉）で李相玉、李京姫の両韓国選手が活躍している。

ヨーロッパの第一線プレイヤーが日本でプレーするのは史上初、東欧圏の女子選手というのは全スポーツ界でも初めてだろう。

意欲的なチームの姿勢示す

○…日本リーグに、また楽しみが一つ増えた。

それにしても、立石は、とてつもない大選手を迎えたものだ。

ナショナルプレイヤーへの評価は、日本とは比べものにならない東欧で、イレッシシュは14年間もその座を守っていたのである。

しかも、七三年の世界選手権で優勝、七五年の世界選手権ではベストセブン、八〇年のモスクワ・オリンピックでは銀メダル・キャプテンという球歴は、これ以上のものがない、といってよいぐらいだ。

記者の記憶に間ちがいがなければ、ピボットプレイヤー、いわゆるポストを得意とする技巧派だ。守りの巧さも定評がある。

ベリツアについては、深い知識がないが、彼女の左腕によってホームクラブを2部から1部へ引き上げた、というのだから、相当なアタッカーと判断していい。

ともに180㎝に近い大型で、小型で若い立石セブンとどう溶け合うかがみものだが、歴戦のキャリアで充分カバーしてくれそうだ。

李コンビの加入で大崎に活気がもどり、リーグそのものへの関心を高めた例からすれば、話題性においてはるかに優るユーゴ・ペアの登場は、ファンにいっそうの楽しみをもたらすことになる。

記者会見で、立石・友沢延彦専務取締役は「現陣容でも、今シーズンは4冠独占を狙える。ユーゴ両選手の加入で、本場・ヨーロッパスタイルの技術を導入レベルアップを企ることが、単に立石にとどまらず、日本の女子界の発展につながろう」と話しているが、日本リーグ各チームのこうした意欲的、積極的姿勢に、日本協会や日本リーグ当局は応えるだけの体制を採ることが必要ではなかろうか。（杉山）

自衛隊勝田が出場辞退

日本リーグは、6月12日に開幕する第7回日本リーグの全日程を近く発表するが、それに先立ち、男子2部の自衛隊勝田（茨城）が今シーズンの出場を辞退していることを明きらかにした。

新戦力の補強が充分でなく、日本リーグで戦うだけのチーム力が整わないというのが理由。

日本リーグ運営委員会は、この申し出を受けることにしており、今シーズンの男子2部は7チーム1回総当りによって争われる。

第13回全国実業団トーナメント（男子のみ）

トヨタ車体が五年ぶり三回目の優勝

32チームが参加

第13回全国実業団トーナメント（男子のみ）は2月6日から9日まで愛知県・刈谷市体育館を主会場に32チームが参加して行われた。

決勝は地元・トヨタ車体（愛知）×東京重機（東京）の初顔合せとなり、トヨタが前半から優位に立って快勝、5年ぶり3回目の優勝を飾った。

▽1回戦

トヨタ車体（愛知）26（10－8、16－5）13 丸善石油（千葉）
興亜石油（山口）22（12－3、10－7）10 住友金属（和歌山）
セントラル自動車（神奈川）19（11－9、8－3）12 日本鋼管福山（広島）
神戸製鋼（兵庫）21（10－7、11－9）16 豊田合成（愛知）
武田薬品光（山口）19（8－9、11－2）11 自衛隊勝田（茨城）
日産化学（千葉）31（16－8、15－7）15 日本碍子（愛知）
新日鉄名古屋（愛知）22（13－5、9－5）10 自衛隊久里浜（神奈川）
丸善石油下津（和歌山）40（22－3、18－1）4 大分鉄道管理局（大分）
東京重機（東京）21（10－11、11－4）15 丸善石油松山（愛媛）
豊田自動織機（愛知）27（15－2、12－6）8 自衛隊福島（福島）
日本発条（神奈川）32（17－3、15－5）8 鐘淵化学（兵庫）
三井石油化学岩国（山口）21（12－7、9－7）14 日本原子力研究所（茨城）
金沢市役所（石川）18（6－5、12－11）16 大阪ガス（大阪）
北陸電力（福井）23（2－3、2－1 ⋮ 9－9、10－10）23 新日鉄大分（大分）
PTC2－0で北陸電力の勝ち
トヨタ自工（愛知）20（10－11、10－7）18 三井石油化学千葉（千葉）
日鉄建材（大阪）24（12－5、12－6）11 本田技研爽風会（三重）

トヨタ自工、日鉄建材破る

▽2回戦

トヨタ車体 38（21－9、17－10）19 興亜石油
セントラル自動車 19（11－5、8－6）11 神戸製鋼
武田薬品光 25（12－6、13－10）16 日産化学
新日鉄名古屋 26（12－11、14－11）22 丸善石油下津
東京重機 31（14－12、17－5）17 豊田自動織機
金沢市役所 27（14－11、13－8）19 三井石油化学岩国
日本発条 26（11－5、15－6）11 北陸電力
トヨタ自工 29（19－11、10－6）17 日鉄建材

新日鉄名古屋幸運勝ち

▽準々決勝

トヨタ車体 29（18－10、11－7）17 セントラル自動車
東京重機 39（21－13、18－9）22 金沢市役所
新日鉄名古屋 23（2－4、2－0 ⋮ 7－11、12－8）23 武田薬品光
トヨタ自工 21（17－8、4－11）19 日本発条

東京重機3回目の決勝へ

トヨタ車体 23（12－4、11－7）11 新日鉄名古屋

得	【車体】		【新日】	得
0	近藤	GK	岩上	0
0	工藤	GK	服部	0
5	中島	FP	伊藤	1
0	横尾	FP	阿久根	0
5	大塚	FP	不破	0
8	萩原	FP	蟹江	3
1	牧	FP	平野	3
1	森岡	FP	竹上	1
3	高橋	FP	渡辺	2
0	三輪	FP	大島	1
0	宮松	FP	戸沢	0
0	山田	FP	上之園	0

（審・岩本、笹野）

23（4）PT（1）11

東京重機 28（12－9、16－7）16 トヨタ自工

得	【重機】		【自工】	得
0	衣笠	GK	玉津	0
0	吉田	GK		
5	奥山	FP	城ヶ原	6
5	卯野	FP	広田	0
2	千葉	FP	目黒	0
8	佐藤	FP	川田	4
3	雨宮	FP	高木	1
1	福地	FP	大川	5
0	古屋敷	FP	近藤	0
3	鷹野	FP	鈴木	0
1	阿部	FP		
0	高橋	FP		

（審・永田、板倉）

28（4）PT（4）16

▽3位決定戦

トヨタ自工 27（15－9、12－8）17 新日鉄名古屋

トヨタ車体、前半で優位

▽決勝

トヨタ車体 23（11－5、12－8）13 東京重機

得	【車体】		【重機】	得
0	近藤	GK	衣笠	0
0	工藤	GK	吉田	0
2	中島	FP	奥山	1
9	萩原	FP	佐藤	4
0	横尾	FP	千葉	2
5	森岡	FP	卯野	3
2	高橋	FP	雨宮	1
1	牧	FP	古屋敷	0
4	大塚	FP	鷹野	1
0	三輪	FP	阿部	1
0	宮松	FP	福地	0
0	山田	FP	高橋	0

（審・吉田、杉本）

23（2）PT（4）13

○…実力互角とみられた両チームだが、前半、重機はややミスが目立ち、地元で張り切るトヨタ車体は中島の好リードから森岡、大塚、萩原らのポイントゲッターが着実にゴールをあげ、早々と〃優勝〃を手中にした。



新登場、ハンドボールスペシャル。なぜ、「スペシャル」なのか。



あのシェルソールが、ダッシュ力、ストップ性、衝撃吸収性をアップ。

世界選手権を始め、国際大会で圧倒的な使用率を誇り、数々の栄光へ導きつづけるアディダス・ハンドボールシューズが、スポーツ科学の最新の成果を背景にさらに新たなシェルソールを装備して登場しました。その名も「ハンドボールスペシャル」。速攻性の追求はもちろん、ソールの溝は極限の倒れ込みシュートでも安定した軸足を確保。ターンを容易にする回転ゾーンやグリップ性を高める吸盤、トレフォイル(3つ葉)パターンなど、ハンドボール競技におけるフットワークの意味をマキシムまで追求し、ダッシュ力、ストップ性、衝撃吸収性をさらにアップしています。

勝利を呼ぶ3本線

adidas®

The science of sport.

ESG 兼松スポーツ用品株式会社

〒532 大阪市淀川区木川東2-5-3☎06・305-1431 〒130 東京都墨田区緑2-12-3☎03・634-1411

○第23回全日本女子実業団選手権

立石電機が二年連続三度目の優勝

第23回全日本女子実業団選手権は4月29日から5月1日まで名古屋の愛知県体育館に10チームが参加して行われた。

決勝は2年つづけて立石電機（熊本）×ジャスコ（三重）の顔合せとなり、立石が後半一気に点差を拡げ、2年連続3度目の優勝を飾った。3位はブラザー工業（愛知）。

▽1回戦

大和銀行（大阪）19（11―6 8―9）15 東京重機（東京）

北国銀行（石川）22（12―4 10―11）15 ムネカタ（福島）

▽2回戦

立石電機（熊本）23（12―8 11―6）14 大和銀行

ブラザー工業（愛知）26（15―7 11―6）13 日立栃木（栃木）

大崎電気（埼玉）18（8―8 10―9）17 日本ビクター（茨城）

ジャスコ（三重）28（15―12 13―6）18 北国銀行

○…大崎×日ビが熱戦だった。大崎は李コンビ（元韓国代表）を起用せずこの大会に臨んでいるが昨秋以降、チームに活気がみなぎっており、今季に〝再建〟のきっかけを求めるビクターの粘りを突き放した。ビクターも敗れたとはいえムードは悪くない。

そのほかの3試合は順当な結果に終ったが、大和が立石に善戦したのが目立ち、ブラザーのムラのない攻撃力も、なかなかのモノがあった。

▽敗者（順位）トーナメント・1回戦

日本ビクター 31（16―6 15―8）14 東京重機

日立栃木 24（16―4 8―5）9 ムネカタ

▽同2回戦

日本ビクター 16（9―7 7―8）15 北国銀行

日立栃木 22（13―7 9―10）17 大和銀行

▽準決勝

立石電機 18（8―6 10―9）15 ブラザー工業

○…ブラザーは杏原、竹内の安定と増永のシャープな動きがかみ合って、攻撃力は立石にヒケをとらぬものがある。

しかし、立石は、ここぞという時にキャリアの豊かさを発揮、GK井村の好技も手伝って制勝した。

ジャスコ 18（10―10 8―6）16 大崎電気

○…大崎は、あと一歩までジャスコを追い詰めながら、昨冬（全日本総合）の雪じょくを逃した。エース西が故障で不調子でなかったことを考えれば、「善戦」以上の評価をしてよい。

ジャスコも万全の体制ではなかったが、新進・寺沢が力を伸ばし要所でいいシュートを決めた。

▽9・10位決定戦

東京重機 22（10―8 12―9）17 ムネカタ

▽7・8位決定戦

大和銀行 17（6―11 11―5）16 北国銀行

▽5・6位決定戦

日立栃木 21（12―7 9―8）15 日本ビクター

▽3・4位決定戦

ブラザー工業 22（11―9 11―10）19 大崎電気

【大崎】		得
GK	梅野	0
	藤田	0
FP	西	4
	石井	4
	陽田	6
	徳渕	2
	宮鵜	1
	時実	2
	渡辺	0
	大日	0
	塩谷	0
	嘉本	0

【ブ工】		得
GK	屋比久	0
	畑添	0
FP	杏原	6
	竹内	2
	尾崎	6
	増永	3
	小野島	3
	松下	1
	塩屋	0
	植田	1
	中村	0
	則武	0

（審・秋永、前川）

22（3） PT （2）19

○…ブラザーがせり合いをモノにするようになったのは注目させる。

この試合も、いく度か大崎ペースに傾きながら、それを許さず、最後に地力を感じさせる攻撃で54年の2位以来の好成績を残した。

▽決勝

立石電機 22（14―8 8―5）13 ジャスコ

【ジャ】		得
GK	矢部	0
	木村	0
FP	辻本	4
	寺沢	4
	松岡	1
	今里	1
	重村	0
	横山	2
	若林	0
	鷲野	1
	石田	0
	田中	0

【立石】		得
GK	井村	0
	荒木	0
FP	木下	1
	羽立	3
	岩村	2
	桑原	2
	姫野	1
	藪田	2
	喜久山	2
	亀園	3
	近藤	4
	是枝	2

（審・川島、森）

22（5） PT （5）13

○…接戦を脱け出したのはPTだった。

立石は前半15分すぎに得た三本のPTを近藤が着実に決めて、攻守に余裕をもたらした。

実力伯仲同士の試合は、えてしてこうしたことが、勝敗の分岐点になる。

ジャスコ守備陣はPTを気にして当りが弱まり、木下、羽立ら功者揃いの立石はすかさず、そこを攻略した。

ジャスコは主力が負傷気味で、思い切りのよいプレーが見られず自滅といった試合ぶりだった。

★ベストセブン

・GK 井村文光子（立石）②
・FP 木下智子（立石）②
岩村英子（立石）①
横山澄江（ジャ）①
寺沢路子（ジャ）①
増永真奈美（ブ工）①
八木千津子（北国）①
・新人賞 藤田祐美子（北国）
○内は受賞回数

フットワークはフォーメーションから生まれます。
だれが駆けても、

シティは、スポーツマン。

ライヴ・ビークル「シティ」

HONDA®



シティのいちばんライヴな遊び友だちです。
トランクをガレージにしてしまった、
モトコンポは、トラバイ（トランクバイク）。

モトコンポ



全日本女子監督に鈴木義男氏

日本協会強化部は3月26日名古屋で強化委員会を開き、全日本女子監督に鈴木義男氏（47才、日本協会強化委員＝女子強化委員長、ジャスコ監督）を決めた。

これは、前監督の池田鉄哉氏が今春1月、勤務先（所属チーム）の都合などで辞表を提出していたことによるもので、この日の会合で正式に受理、後任として鈴木氏を選任した。

鈴木監督は、4年前にもいちど全日本女子監督をつとめており、返り咲き。

今春3月のヨーロッパ遠征（別掲）では、池田氏の空席を埋めるため団長兼監督をつとめていた。

また、席上、男女コーチングスタッフの追加が提案され、男子コーチとして佐藤雲二（本田技研鈴鹿監督）、中井武三（大同特殊鋼コーチ）、女子コーチとして紀野奈々美（立石電機）の三氏を新任した。

紀野コーチは、史上初の女性コーチである。

インド国際は不参加

日本協会は、インド協会が初めて開くインド国際男子トーナメント（4月20〜25日・ヒデラバッド）に代表チームを送るよう検討していたが、新年度早々とあって選手の編成が思うにまかせず、参加をとりやめることに決めた。

同大会への参加は、ナショナルチームが日中交流（4月10〜21日）に遠征するため、単独有力チームに出場打診が行われていたが希望がなく、日本協会は改めて強化部に代表チームの派遣を依頼していた。

強化部は、当初の予定どおりナショナルチームの参加はムリとし全日本実連へ「実業団選抜軍」の編成を提案した。

しかし、全日本実連・山田稔理事長は、時期的な問題から連盟としての選考に難色を示し、強化部へ一任の形で差し戻した。

このため、竹野奉昭強化委員長が中心となって、日本リーグ、実業団の上位チームからリストアップ、交渉を進めたが、6〜7名の確保はできたものの、新年度の仕事初めと重なり1チーム結成までには至らず、日本協会あて実情を報告、常務理事会も、断念を決めた。

全日本女子、今秋北朝鮮へ

日本協会は、今秋、全日本女子を朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）へ遠征することを決めた。

この遠征は、同国からの招待を受けるもので当初は5月中旬の10日間とされていたが、同時期に世界女子選手権アジア地域予選の東京開催が有力となったため、時期を秋に延ばすよう要望、このほど同国協会から承諾が伝えられた。

同国へ日本のハンドボールチームが訪問するのは、男女を通じ史上初めて。試合の帰すうとともに友好・親善の成果に大きな期待がかけられる。

女子ジュニアはテラモに

日本協会強化部は、男女ジュニアの強化計画を急いでいるが、このほど女子ジュニア・ナショナルチームを、7月3日からイタリアのテラモで開かれる第10回インテラムニア・カップに参加させることを決めた。

同カップは、来年の世界女子ジュニア選手権の前哨戦の一つで、一九六三年生まれ以降の選手によるトーナメント、すでにカナダの参加が発表されている。

代表メンバーは、6月中旬までに選考を終えるが、来年の世界女子ジュニア選手権アジア予選突破を最大目標とした編成になろう。

当初、同カップには男子ジュニア・ナショナルの参加も計画されたが経費上の問題で見送られた。

アジア大会は12カ国以内で

アジア・ハンドボール連盟（AHF）は、4月7、8日クウェートで理事会を開き、日本から荒川清美、渡辺和美両理事が出席した。

注目の、今秋インドで行われる第9回アジア競技大会ハンドボール競技（男子）については、最大12カ国の参加で、ニューデリー大学の屋外コートが、使用されることが明きらかになっただけで、具体的な運営については、ほとんど話し合われなかった。

また、第8回世界女子選手権アジア予選については、中東勢にあまり関心がなく、5月25日から30日まで東京で開きたい、とする日本協会の申し入れに、強い反対も出ないまま、聞きとどけられた。

荒川理事（日本協会専務理事）は「世界女子アジア予選は、韓国も開催を希望しているようだが、AHFとしては東京に決めた。近くIHF（国際ハンドボール連盟）からも正式発表があろう」と話している。アジア予選の参加国は5月1日IHFから発表される。

◇

今秋の第9回アジア競技大会男子ハンドボールについて、日本協会・竹野強化部長は、3月26日の強化委員会で、6月末までに第一次候補選手を選考、9月に合宿を行って代表選手を決めたい、と語っている。

代表選手数はJOC（日本オリンピック委員会）によって決められるが14名または16名とみられる。

加藤選手、西ドイツ球界入り

日体大は、4月8日東京渋谷の体協記者クラブで、同校を今春卒業した加藤典代選手（全日本）が、西ドイツ女子全国リーグの強豪RW・アウエルバッハに加わることになったと発表した。

加藤選手は、昨年、一昨年の関東学生ヨーロッパ遠征の一員として西ドイツを転戦した際、同クラブのコーチの目にとまったもので日本の女子選手として、初の外国クラブ入りが実現した。同選手は4月11日出発したが西ドイツの全国リーグは5月上旬終幕のため、本格的な活躍は来シーズン（9月〜来年5月）となろう。

◇

外国の全国リーグで日本人が活躍した例は、一九七〇〜七一年、西ドイツの「ハンブルグ・SV」に加った近森克彦選手（現三陽商会総監督当時大崎電気）がある。

昭和57年度事業計画

(財)日本ハンドボール協会

	総務	大会	競技部	強化部 (▽男子 ○女子)	国際
4月	仮称 第1回 理事会 全国理事長会議	第23回女子実業団選手権 (29~5/1・名古屋)		▽ ○ 中国遠征 (8~20)	
5月		第23回男子実業団選手権 (13~15・大阪) 愛知県体育館	AB級審判審査 ( )	○ 第1次合宿 ( ) ○ 第2次合宿 ( ) ○ ジュニア第1次合宿 ( ) ○ 北朝鮮遠征 (25~6/3)	世界女子選手権アジア予選 (24~29・東京)
6月	第2回 理事会	日本リーグ前期開幕 (12~) 第31回学生東西対抗 ( )	全国指導者会議 ( )	▽ 第1次合宿 ( ) ▽ ジュニア第1次合宿 ( ) ○ ジュニア第2次合宿	
7月	第1回 評議員会 第3回 理事会	日本リーグ前期閉幕 (~11) 第9回全国高専大会 (29~30・秋田)	教育系大学研修会 (28~31・茨城)		テラモ国際 (4~9 ローマ) チェコ男子招待 (5~20・国内各地)
8月		第25回全日本高校選手権 (1~7鹿児島隼人町) 第25回全日本教職員大会 (4~12群馬県富岡市) 全国クラブ選手権 (13~15・滋賀) 第11回 全国中学校大会 (22~24・富山県)	公認審判員地方講習会 ( )		西ドイツ女子ナショナル招待 (10~18) 日韓高校交流 (19~25・ソウル) IHF総会 (25~30・ロンドン)
9月		第14回 全日本自衛隊選手権 (~)		▽ジュニア第2次合宿	

	総　　務	大　　会	競　技　部	強化部（▽男子 ○女子）	国　　際
10 月		第37回国民体育大会 （3～8島根県江津市外） 日本リーグ後期開幕 （17～　　）	公認審判員地方講習会 （　　　島根県）	▽ 第3次合宿 （　　　） ○ 第4次合宿 （　　　）	
11 月	顧問・参与会議 第4回 理事会	日本リーグ後期閉幕 （～7　　　） 名古屋愛知県体育館		▽ ジュニア第3次合宿 （　　　） ○ 第5次合宿 （　　　） ○ ジュニア第3次合宿 （　　　）	アジア大会 （19～12/4 インド） AHF総会 （同　　上）
12 月		第25回全日本学生選手権 （1～5・愛知県） 第34回全日本総合選手権 （22～26・駒沢）			世界女子選手権 （1～13 ハンガリー）
1 月			審判審査委員 審判委員　｝合同会議 （　　　）	▽ 第4次合宿 （　　　）	世界学生選手権
2 月	第2回 評議員会 第5回 理事会	第14回全日本実業団 トーナメント （　　　埼玉）	公認コーチ講習会 （7～13・青少年センター）	▽ 第5次合宿 （　　　） ▽ ジュニア第4次合宿 （　　　） ○ 第6次合宿 （　　　） ○ ジュニア第4次合宿 （　　　）	
3 月		第6回全国高校選抜大会 （25～28愛知県体育館）	第6回JHAレフェリー コース （　　　）	▽ 第6次合宿	

昭和56年度補正予算

収入の部

財団法人日本ハンドボール協会

科目 款	項	目	当初予算額	補正予算額	説明
1．負担金			2,850,000		
	(1) 負担金		2,850,000		加盟金
		(イ) 負担金	2,850,000		(A)（100チーム以上）10万円×6県，(B)（99チーム以下）5万円×42県，加盟団体5万円×5団体
2．補助金			8,670,000	8,745,000	
	(1) 補助金		8,670,000	8,745,000	日体協補助金
		(イ) 補助金	8,670,000		(イ)教育系大学生研修会補助 760,000 (ロ)スポーツ振興事業補助 825,000 (ハ)公認コーチ講習料 160,000，(ニ)強化合宿補助 2,000,000 (ホ)体協強化費交付金 5,000,000
3．委託費			500,000	605,000	
	(1) 委託費		500,000	605,000	日体協委託費
		(イ) 委託費	500,000	605,000	強化コーチ巡回指導委託金
4．事業収入			27,110,000	27,787,600	
	(1) 登録料		9,000,000	9,677,600	
		(イ) 登録料	9,000,000	9,677,600	団体 5,800,000　個人 3,870,000
	(2) 検定・審査料		5,400,000		
		(イ) 公認料	5,000,000		
		(ロ)審判員審査料	400,000		
	(3) 開催権料		1,710,000		
		(イ) 日本リーグ開催権料	1,710,000		
	(4) 機関紙購読料等		11,000,000		
		(イ) 購読料	8,300,000		
		(ロ) 広告料	2,700,000		
5．寄付金			49,523,088	49,671,888	
	(1) 寄付金		49,523,088	49,671,888	
		(イ) オリンピック寄金	900,000	1,048,800	オリンピック基金寄付金
		(ロ) その他の寄付金	48,623,088		加盟団体寄付金 5,000,000　旧協会継承金 43,623,088（内基本財産繰入寄付 10,721,000　その他の寄付 6,790,000）
6．雑収入			4,300,000		
	(1) 雑収入		4,300,000		
		(イ)物品売上収入	1,800,000		審判のパック，コイン，手帳，ルール改正によるルールブック作成
		(ロ) 預金利子	2,500,000		
(控除)旧協会継承金中基本財産			10,721,000		
合計			83,232,088	84,238,488	

支出の部

科目 款	項	目	予算額	補正予算額	説明
1. 加盟金			660,000		
	(1) 加盟金		660,000		
		(イ) IF加盟金	220,000		
		(ロ) 体協 〃	150,000		
		(ハ) AF 〃	290,000		年会費を含む (70,000)
2. 事務費			18,332,000	18,512,000	
	(1) 人件費		7,572,000		
		(イ) 給料	5,040,000		〔200,000+(110,000×2)〕×12ヶ月
		(ロ)超過勤務手当			
		(ハ) 賞与	2,100,000		〔200,000+(110,000×2)〕×5ヶ月
		(ニ) 通勤手当	432,000		1名月額 1.2万円×12月×3名
		(ホ) 賃金			
	(2) 運営諸費		5,390,000	5,890,000	
		(イ) 備品費	200,000		
		(ロ) 消耗品費	700,000		
		(ハ) 印刷製本費	1,000,000	1,200,000	
		(ニ) 通信運搬費	1,500,000	1,800,000	
		(ホ) 旅費	200,000		各種連絡会費交通・宿泊費
		(ヘ)借料及び損料	1,000,000		事務所借料月額81,000×12ヶ月, 会議室借料7,000×4
		(ト) 会議費	200,000		総務・企画・渉外・財務部会議及び事業部連絡会議
		(チ) 諸謝金	240,000		公認会計士報酬
		(リ) 物品作成費	350,000		手帳・ワッペン
	(3) 旅費		3,240,000	2,520,000	
		(イ) 役員旅費	3,240,000	2,520,000	理事会 1,000,000 常務理事会 200,000 各種大会派遣費 300,000 AHF理事会 1,000,000 監事旅費 20,000
	(4) 渉外費		1,000,000		
		(イ) 渉外費	1,000,000		
	(5) 雑費		600,000	1,000,000	
		(イ) 雑費	600,000	1,000,000	ツルゲマインデ(西ドイツ)連絡補償費 100,000×4 (青森, 秋田, 福島, 群馬)
	(6) 保険料		150,000		
		(イ) 保険料	150,000		
	(7) 賞杯( )費		380,000		
		(イ) 賞杯()費	380,000		
3. 編集委員会費			10,290,000		
	(1) 編集委員会費		10,290,000		
		(イ) 嘱託費	480,000		アルバイト @ 40,000×12ヶ月
		(ロ) 旅費	480,000		@ (20,000+4,000)×20人
		(ハ) 会議費	110,000		@ 10,000×11回
		(ニ) 印刷製本費	9,220,000		印刷製本費 7,480,000 (@ 200×3,400×11ヶ月), 送料 1,210,000 (11,000×11ヶ月), 原稿用紙他 530,000
4. 事業費			15,962,000		
	(1) 団体補助・大会費		3,480,000		
		(イ) 団体補助・大会費	3,480,000		地区連盟 270,000 全日本学生 150,000, 高体連 610,000 全日本教職員 150,000 全国実業団トーナメント 300,000 全日本高専 150,000 全国中学大会 1,000,000 全国高校選抜大会 600,000 全日本総合大会 100,000 全国クラブ連盟 150,000
	(2) ミニハンドボール研究指導費		295,000		
		(イ) 旅費	240,000		(20,000+4,000)×10名
		(ロ) 会議費	25,000		
		(ハ) 印刷費	30,000		
	(3) ハンドボール教室開設助成費		600,000		開催地協会に助成
		(イ) 開催地補助	600,000		@ 200,000×3県

科目			予算額	補正予算額	説明
款	項	目			
	(4) クラブ育成費		150,000		
		(イ)クラブ育成費	150,000		
	(5) 教育系大学生研修費		1,501,000		（8月中旬，場所未定 150名）
		(イ) 旅費	101,000		交通費@4,000×15人＝56,000 宿泊費@3,000×15人＝45,000
		(ロ) 借損料	100,000		会場借上料
		(ハ) 諸謝金	240,000		@4,000×15人×4日
		(ニ) 受講者補助	900,000		@1,500×150人×4日
		(ホ) 雑費	160,000		傷害保険70,000 雑費20,000 用具費50,000 通信運搬費20,000
	(6) 公認コーチ講習会費		480,000		（2月下旬，東京 50名）
		(イ) 旅費	260,000		旅費 8,000×10人＝80,000 宿泊費 4,000×5人×6日＝120,000 食費 1,000×10×6日＝60,000
		(ロ) 印刷費	50,000		資料
		(ハ) 講師謝金	150,000		講師旅費を含む
		(ニ) 雑費	20,000		
	(7) 普及関係諸費		960,000		
		(イ) 印刷費	300,000		
		(ロ) 旅費	600,000		@交通費20,000×25人＝500,000，宿泊費@4,000×25人＝100,000
		(ハ) 会議費	60,000		
	(8) AB級公認審査員審査		326,000		（A.B級公認審判員の実技，ペーパー，体力のテストを実施）
		(イ) 旅費	256,000		担当者旅金費（20,000×5＋4,000×5×3）
		(ロ) 借損料	50,000		会場使用料
		(ハ) 審査会議費	20,000		食費他
	(9) 公認審判員中央研修会		270,000		（各都道府県協会審判員長の参加を求めて競技規則の解釈と統一を図る）
		(イ) 旅費	180,000		@20,000×9人（担当者）
		(ロ) 開催費補助	90,000		1ブロック 10,000円
	(10) 公認審判員地方研修会		216,000		（協会主催年3回実施，審判技術の向上と競技規則の解釈と統一を図る）
		(イ) 旅費	216,000		第1回 20,000×2＋4,000×2×4泊， 第2回 20,000×2＋4,000×2×4泊， 第3回 20,000×2＋4,000×2×4泊
	(11) JHAレフェリーコース		580,000		（若い優秀な審判員の育成）
		(イ) 旅費	320,000		担当者旅費宿泊費（前期）20,000×5＋4,000×5×3泊 （後期）20,000×5＋4,000×5×3泊
		(ロ) 借損料	200,000		前期・後期 100,000×2
		(ハ) 雑費	60,000		
	(12) 審判関係諸費		674,000		（審査委員会競技規則研究委員会，審判委員会合同会議）
		(イ) 旅費	604,000		審査委員会会議 20,000×8＋4,000×8×2＝224,000 審査委員会合同会議 15,000×20＋4,000×20×1＝380,000
		(ロ) 会議費	70,000		
	(13) 強化合宿費		4,000,000		
		(イ) 旅費	4,000,000		
	(14) ジュニア研修合宿費		1,000,000		
		(イ) 旅費	1,000,000		
	(15) 海外研修費		1,200,000		
		(イ) 旅費	1,200,000		トレーナ 2名 レフェリー 2名 個人負担以外の旅費 1人30万円×（2＋2）人
	(16) 強化部諸費		230,000		
		(イ) 旅費	200,000		
		(ロ) 会議費	30,000		
5．委託事業費			700,000		日体協委託事業
	(1) 強化コーチ巡回指導		700,000		
		(イ) 旅費	700,000		
6．基本財産繰入金			17,000,000		財団設立許可時基本財産 33,790,770円
7．特別会計繰入金			1,000,000	5,300,000	世界ジュニアアジア予選 1,000,000円（特別会計別紙）
8．予備費			9,288,088	5,814,488	
9．翌年度繰越金			10,000,000		翌年度当初運営資金，未収入金引当
合計			83,232,088	84,238,488	

テーマは「人間と機械」

OMRON

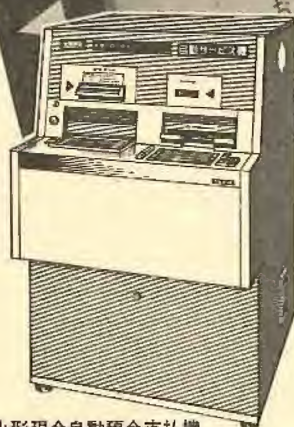


人間と機械との対話。

機械化、無人化がすすみ、人間と機械との関わりあいが深まるにつれ、より扱いやすく、より親切な機械の開発が望まれてきました。目から、耳から、人間との対話をはかろうとする試みがそれです。

すっかりおなじみになった銀行の機械化コーナー。そこでは、CRTを採用した操作案内で、きめ細かなメッセージをおとどけしている支払機や預金機が。レストランでは、表示・レシートをもカナ文字ででてくる電子レジスタが…。

このように、オムロンは"人間と機械との対話"を推し進めながら、その新しい歴史をつくっています。



OMRON小形現金自動預金支払機

預金・支払・両替・記帳・残高照会…など、目的にあわせて、CRTでわかりやすく操作案内。だれもが間違いなくスムーズに使いこなすことができます。



OMRON電子レジスタ591-IRC

価格だけでなく、カナ文字で品名をも表示、さらにレシートにも同じカナ文字で印字。明瞭で気もちよい会計が行なえます。

OMRON
立石電機

立石電機株式会社
〒616京都市右京区花園土堂町10
TEL075(463)1161大代

昭和57年度　予　算

収入の部

財団法人日本ハンドボール協会

款	項	目	予算額	前年度予算額	説明
1．負担金			2,850,000	2,850,000	
	(1) 負担金		2,850,000	2,850,000	加盟金
		(イ) 負担金	2,850,000	2;850,000	A（100チーム以上）10万円×5県，　B（99チーム以下）5万円×42県，加盟団体5万円×5団体
2．補助金			3,745,000	8,745,000	
	(1) 補助金		3,745,000	8,745,000	日体協補助金
		(イ) 補助金	3,745,000	8,745,000	(イ)教育系大学生研修会補助金 760,000　(ロ)スポーツ振興事業補助 825,000　(ハ)強化合宿補助 2,000,000　(ニ)公認コーチ講習会補助 160,000
3．委託費			605,000	605,000	
	(1) 委託費		605,000	605,000	日体協委託金
		(イ) 委託費	605,000	605,000	強化コーチ巡回指導委託金
4．事業収入			28,780,000	27,787,600	
	(1) 登録金		9,670,000	9,677,600	
		(イ) 登録金	9,670,000	9,677,600	団体 5,800,000　個人 3,870,000
	(2) 検定，審査料		5,400,000	5,400,000	
		(イ) 公認料	5,000,000	5,000,000	
		(ロ)審判員審査料	400,000	400,000	
	(3) 開催権料等		2,710,000	1,710,000	
		(イ) 日本リーグ開催権料	1,710,000	1,710,000	
		(ロ) 放映権料	1,000,000	0	
	(4) 機関誌購読料等		11,000,000	11,000,000	
		(イ) 購読料	8,300,000	8,300,000	
		(ロ) 広告料	2,700,000	2,700,000	
5．寄付金			6,000,000	49,523,088	
	(1) 寄付金		6,000,000	49,671,888	
		(イ) オリンピック寄付金	1,000,000	1,048,800	オリンピック基金
		(ロ) その他の寄付金	5,000,000	48,623,088	
6．雑収入			4,250,000	4,300,000	
	(1) 雑収入		4,250,000	4,300,000	
		(イ)物品売上収入	1,250,000	1,800,000	審判バック、手帳、コイン、ハンドボールテキスト
		(ロ) 預金利子	3,000,000	2,500,000	
7．繰越金			5,000,000		
	(1) 前年度繰越金		5,000,000		
		(イ)前年度繰越金	5,000,000		
合計			51,230,000		

支出の部

科目 款	項	目	予算額	前年度予算額	説明
1. 加盟金			660,000	660,000	
	(1) 加盟金		660,000	660,000	
		(イ) IF加盟金	220,000	220,000	
		(ロ) 体協加盟金	150,000	150,000	
		(ハ) AF加盟金	290,000	290,000	年会費を含む
2. 事務費			19,202,000	18,332,000	
	(1) 人件費		7,612,000	7,572,000	
		(イ) 給料	4,992,000	5,040,000	〔160,000+(128,000×2)〕×12ヶ月
		(ロ)超過勤務手当	0	0	
		(ハ) 賞与	2,080,000	2,100,000	〔160,000+(128,000×2)〕×5ヶ月
		(ニ) 通勤手当	540,000	432,000	15,000×12ヶ月×3
		(ホ) 賃金	0	0	
	(2) 運営諸費		6,440,000	5,390,000	
		(イ) 備品費	200,000	200,000	
		(ロ) 消耗品費	800,000	700,000	
		(ハ) 印刷製本費	1,200,000	1,000,000	
		(ニ) 通信運搬費	2,000,000	1,500,000	
		(ホ) 旅費	200,000	200,000	各種会議・旅費・宿泊費
		(ヘ)借料及び損料	1,000,000	1,000,000	事務所借用料81,000×12ヶ月, 会議室借料7,000×4回
		(ト) 会議費	200,000	200,000	総務, 企画, 渉外, 財務部会会議及び事業部連絡会議
		(チ) 諸謝金	240,000	240,000	公認会計士報酬
		(リ) 物品作成費	600,000	350,000	手帳, ワッペン, ハンドボールテキスト等
	(3) 旅費		3,020,000	3,240,000	理事会 1,000,000 常務理事会 200,000 各種大会派遣 300,000 A.H.F.総会 1,000,000 監事旅費 20,000 I.F総会 500,000
		(イ) 役員旅費	3,020,000	3,240,000	
	(4) 渉外費		1,000,000	1,000,000	
		(イ) 渉外費	1,000,000	1,000,000	
	(5) 雑費		600,000	600,000	
		(イ) 雑費	600,000	600,000	
	(6) 保険料		150,000	150,000	
		(イ) 保険料	150,000	150,000	
	(7) 賞杯費		380,000	380,000	
		(イ) 賞杯費	380,000	380,000	
3. 編集委員会費			10,290,000	10,290,000	
	(1) 編集委員会費		10,290,000	10,290,000	
		(イ) 嘱託費	480,000	480,000	アルバイト 40,000×12ヶ月
		(ロ) 旅費	480,000	480,000	編集旅費 24,000×20人
		(ハ) 会議費	110,000	110,000	編集会議 10,000×11回
		(ニ) 印刷製本費	9,220,000	9,220,000	印刷製本費 7,480,000(200×3,400冊×11回), 送料 1,210,000(110,000×11回), 原稿用紙外 530,000
4. 事業費			17,766,000	14,762,000	
	(1) 団体補助, 大会費		4,380,000	3,480,000	
		(イ) 団体補助, 大会費	4,380,000	3,480,000	地区連盟 270,000 全日本学生 150,000 高体連 610,000 全日本教職員 150,000 全国実業団トーナメント 300,000 全日本高専 150,000 全国中学大会 1,000,000 全国高校選抜 600,000 全日本総合 1,000,000 全国クラブ 150,000
	(2) 国民スポーツプロジェクト		300,000	0	ミニハンドボール研究指導費 (295,000)
		(イ) 旅費	240,000	0	(20,000+4,000)×10名
		(ロ) 会議費	30,000	0	
		(ハ) 印刷費	30,000	0	
	(3) ハンドボール教室開設助成金		600,000	600,000	
		(イ) 開催地補助	600,000	600,000	開催地協会に助成 200,000×3県

科		目	予算額	前年度予算額	説明
款	項	目			
	(4) クラブ育成費		150,000	150,000	
		(イ) 育成費	150,000	150,000	
	(5) 教育系大学研修会費		1,600,000	1,501,000	
		(イ) 旅費	120,000	101,000	旅費 4,000×15人, 宿泊費 4,000×15人
		(ロ) 借損料	100,000	100,000	会場借上料
		(ハ) 諸謝金	300,000	240,000	講師謝礼 5,000×15人×4日
		(ニ) 受講者補助	900,000	900,000	1,500×150人×4日
		(ホ) 雑費	180,000	160,000	傷害保険90,000 用具費50,000 通信運搬費20,000 雑費20,000
	(6) 公認コーチ講習会		480,000	480,000	
		(イ) 旅費	260,000	260,000	旅費 8,000×10人, 宿泊料 4,000×5人×6日, 食費 1,000×10人×6日
		(ロ) 印刷費	50,000	50,000	資料
		(ハ) 講師謝金	150,000	150,000	講師旅費を含む
		(ニ) 雑費	20,000	20,000	
	(7) 普及関係諸費		960,000	960,000	中央委員会, クラブ関係委員会, 小・中学委員会, スポーツ少年団委員会, 高専委員会
		(イ) 印刷費	300,000	300,000	フイルム代
		(ロ) 旅費	600,000	600,000	旅費20,000×25人, 宿泊費 4,000×25人
		(ハ) 会議費	60,000	60,000	
	(8) A・B級審判員審査		326,000	326,000	A.B級審判員の受験者のペーパー, 実技テスト実施
		(イ) 旅費	256,000	256,000	旅費20,000×5人, 6,000×6人, 宿泊料 4,000×10人×3日
		(ロ) 借損料	50,000	50,000	会場使用料
		(ハ) 審査会議費	20,000	20,000	会費外
	(9) 公認審判ブロック研修会		270,000	270,000	
		(イ) 旅費	180,000	180,000	旅費20,000×9人
		(ロ) 開催費補助	90,000	90,000	10,000×9ブロック
	(10) 公認審判地方講習会		216,000	216,000	協会主催年3回実施（審判技術の向上と競技規則の統一を図る）
		(イ) 旅費	216,000	216,000	旅費20,000×2人×3回, 宿泊料 4,000×2人×42日×3回
	(11) J.H.A.レフェリーコース		580,000	580,000	若い優秀な審判員養成
		(イ) 旅費	320,000	320,000	旅費20,000×5人×2回(前・後期), 宿泊料 4,000×5人×2回
		(ロ) 借損料	200,000	200,000	100,000×2回（前・後期）
		(ハ) 雑費	60,000	60,000	
	(12) 審判関係諸費		674,000	674,000	審判審査委員会, 競技規則研究委員会, 審判委員合同会議
		(イ) 旅費	604,000	604,000	審判審査委員会旅費20,000×8, 同宿泊料 4,000×8×2回, 合同会議旅費15,000×20人, 宿泊料 4,000×20人
		(ロ) 会議費	70,000	70,000	
	(13) 強化合宿費		4,000,000	4,000,000	
		(イ) 旅費	4,000,000	4,000,000	
	(14) ジュニアー合宿費		1,000,000	1,000,000	
		(イ) 旅費	1,000,000	1,000,000	
	(15) 強化部諸費		230,000	230,000	
		(イ) 旅費	200,000	200,000	
		(ロ) 会議費	30,000	30,000	
	(16) 国際審判員認定講習会		1,000,000	0	
		(イ) 旅費	700,000	0	
		(ロ) 借損料	300,000	0	
	(17) 世界選手権アジア予選		1,000,000	0	
		(イ) 開催委託費	1,000,000	0	日本開催希望
5. 受託事業費			700,000	700,000	
	(1) 強化コーチ巡回指導		700,000	700,000	
		(イ) 旅費	700,000	700,000	
6. 特別会計繰入れ			1,000,000	5,300,000	
7. 予備費			1,612,000	5,814,488	
合計			51,230,000		

プレス・ルーム ＜36＞

杉　山　　茂
――――（ＮＨＫ運動部）―

■揃って選ばれたモスクワ代表

日本協会が発表した第10回世界男子選手権代表メンバーをみて、ガラにもなく感傷的になった。

16選手のうち14人が、あの＜モスクワ・オリンピック＞の代表に選ばれた人たちなのだ。

ボイコットが決められた日から二十二カ月が過ぎている。

彼らは、この〝長い期間〟どんな気持でプレーをつづけ、トレーニングを積んできたのだろうか。

このうちの何人かは、モスクワに予定どおり参加していれば、閉幕後に全日本のユニホームを脱ぐつもりだった、と聞く。

激しい社会人としての生活を営む一方で、ナショナル・プレイヤーの栄光を守ることは、なみたいていのことではない。

オリンピックへの切符を手にしてこれを一つのきっかけに、進退を考えるのは、当然かもしれない。

そのチャンスを彼らは失ったのだ。それも、まったく、自分たちの望んでいない手段で…。

自らの身体に、精神にムチを入れなおし、次のターゲットに＜世界選手権＞を据え、改めて走り出す苦労は、第三者の想像を絶するものがあったのではあるまいか。

しかも、後進との競争という新たな難関が待ちうけもしていたのである。

去年の秋のアジア予選でみせたモスクワ組の燃えかたは、近づくのが怖いような感じさえした。

意地の爆発ともいえたし、「オリンピック選手」としての誇りともいえた。

こうした感情を、別の角度でとらえていたのは竹野奉昭監督と東嘉伸コーチだ。

オリンピック不参加で、ともすれば坐折感を抱きかける選手たちを口説き、その日までプレーをつづけさせてきたのだ。

竹野監督も東コーチも、モスクワ・オリンピックで一区切りつける意志を固めていた、といわれる。

選手たちに、全日本からの離散を思い留まらせる以上、自分たちの気持ちも棚上げだった。

激しい予選を勝ち抜いたあと、竹野監督は、津川昭主将に「ありがとう」といって絶句した。

一カ月も経った頃、竹野監督は記者に「あんなこと初めてだ」と打ち明けた。

その気手ち分かる。すごく分かる。

代表メンバーのリストを前にした時の私がそうだからだ。

モスクワ不参加の直後、今回の14人が全日本から退いてしまったら、その〝再建〟にどれだけ手間（てま）がかかったことか。

あるいは韓国、中国に抜かれ、ハンドボール界の崩壊にさえなりかねなかった。

悔しさに耐え、苦しさを忍んだ14人が、揃って世界選手権代表に選ばれて本当によかった。

君たちの努力は、今度こそ、若いプレイヤーたちが立派に引き続いでくれるにちがいない。

■ジャパンカップ休止に乱暴だ

去年、鳴りもの入りで始めた「ジャパン・カップ」が、今年は、早々と〝休会〟に決まった。

強化関係者はもとより、ファン愛好者は、日本にも、ようやく本格的な国際トーナメントが生まれた、と喜んだものだ。

第一、日本協会が、この点を強調し、マスコミ関係者に売りこんでまわったではないか。

それをまた、極めてあっさり引っこめてしまった。

聞けば、去年の各地の反応があまり芳しくなかったからだそうだ。

そして、各地の反応とは地方協会関係者を指す、というのである。

ずいぶん、おかしな話だ。地方協会に、そっぽを向かれたぐらいで、新しい看板事業を、さっさと廃めてしまうなど、解せない。

突っこんで聞いてみると、地方協会が「是非来年も」といわなかった理由は、さまざまな交渉過程に原因がある。

去年は、日本協会の事前打ち合せが、まったく稚拙だったのだ。

そこのところにフタをして、各地の反応の悪さへすり替えてしまう神経、いったい、どうなっているのだろう。

大騒ぎしたツルゲマインデ・ベルリン来日にしても、日本協会の地方への気くばりに問題があった。

そのほか、最近は、中央のできごと、姿勢がまったく地方へ伝えられていない、という声も聞く。

財団法人になって、組織がしっかりするか、と期待をかけていたのだが、実態は、むしろ、以前より悪くなっている感じである。

荒川清美専務理事に、この話をしたら「委員会システムが、まだ充分機能していない」ということであった。

〝原因〟が分かっているのなら早いところ手を打って、日本協会―地方協会の間を流れをよくしなければなるまい。

それにしても「ジャパン・カップ」の休止は乱暴すぎる。

第二回大会へ向けて、どれだけの話し合いをしたというのだ。

ハンドボール界の動きを気にしている同僚に「今年はジャパンカップないそうだよ」といったら「あの大会、何年つづいた？」と聞き返された。「去年始めたのだよ」ともいえず、話題をそらせた。

各地の記録

⊠長崎県室内選手権

（1月3日）

〈男子〉

▽予選リーグ

長崎工OB 12—0 日大OB

佐世保ク 30—7 長崎ク

口加OB 13—11 深堀ク

口加ク 16—8 大村自衛隊

佐世保北OB 22—12 長崎工OB

佐世保ク 17—10 佐世保西OB

九十九ク 12—11 口加OB

大村自衛隊 11—9 佐世保商OB

佐世保北OB 20—8 日大高OB

佐世保西OB 26—11 長崎ク

九十九ク 12—11 深堀ク

口加高ク 21—13 佐世保商OB

▽準決勝

佐世保北OB 24（8—12、9—5）17 九十九ク

佐世保ク 14（9—5、5—4）9 口加高ク

▽決勝

佐世保北OB 18（10—5、8—12）17 佐世保ク

⊠第15回滋賀県室内総合選手権

（1月24、31日）

〈男子〉

▽1回戦

米原高OB 23—9 彦根東高

▽2回戦

八幡工高 22—5 ダイキン工業

赤鬼クラブ 27—11 浅井クラブ

八幡クラブ 20—12 滋賀ハンターズ

米原高OB 21—17 長浜クラブ

滋賀教員 24—11 彦根西高

滋賀大教育 17—6 守山クラブ

京都セラミック 16—10 滋賀大経済

高島クラブ 21—15 米原高

▽3回戦

八幡工高 22—8 赤鬼クラブ

八幡クラブ 17—12 米原高OB

滋賀教員 23—15 滋賀大教育

京都セラミック 18—17 高島クラブ

▽準決勝

八幡クラブ 29（11—13、18—6）19 八幡工高

滋賀教員 23（12—9、11—7）16 京都セラミック

▽決勝

滋賀教員 25（14—11、11—5）16 八幡クラブ

〈女子〉

▽1回戦

大津クラブ 不戦勝 彦根西高

能登川中 13—6 彦根東高

▽2回戦

彦根南高 28—5 滋賀大教育

滋賀文体振 17—16 守山女高

▽準決勝

彦根南高 17（6—1、11—0）1 能登川中

滋賀文体振 25（10—3、15—5）8 大津クラブ

▽決勝

彦根南高 27（14—7、13—9）16 滋賀文体振

⊠第8回茨城県一般室内選手権

（1月24、31日）

〈男子〉

▽1回戦

筑波大 21—10 鉾田クラブ

土浦三高OB 12—11 玉造クラブ

動燃東海 12—0 自衛隊古河

茨苑クラブ 16—9 筑波ラバーズ

筑波振球会 21—10 笠間クラブ

▽2回戦

筑波大 16—11 茨城大

動燃東海 19—9 土浦三高OB

茨苑クラブ 19—12 日本原研

筑波振球会 29—14 自衛隊勝田

▽準決勝

筑波大 28（14—3、14—5）8 動燃東海

筑波振球会 19（9—5、10—7）12 茨苑クラブ

▽決勝

筑波振球会 19（7—10、12—8）18 筑波大

〈女子〉

▽決勝

桜芳クラブ 14（5—2、9—2）4 筑波ラバーズ

⊠第21回山口県総合選手権

（1月31日・2月7日）

〈男子〉

▽1回戦

下松ク 23—22 興亜石油

出光徳山 24—16 とおしろうク

三井石油 20—12 徳山曹達

海自小月 20—18 宇部高専

▽2回戦

岩国ク 29—28 下松ク

徳山ク 37—10 出光徳山

下関ク 23—14 三井石油

山口教員団 30—24 海自小月

▽準決勝

岩国ク 27（15—11、12—11）22 徳山ク

下関ク 39（22—7、17—8）15 山口教員団

▽決勝

下関ク 28（17—12、11—7）19 岩国ク

⊠第21回富山県室内選手権

（2月6、7、11日）

〈一般男子〉

▽1回戦

富山教員 18—14 八尾クラブ

氷見シニヤ 14—13 射水クラブ

想球会 17—14 桜樹クラブ

氷見クラブ 30—13 北嶺会

▽準決勝

氷見シニア 24—19 富山教員

氷見クラブ 18—15 想球会

▽決勝

氷見クラブ 20（8—11、12—8）19 氷見シニヤ

〈女子〉

▽1回戦

想球会 13—9 高岡女OG

▽決勝

有磯OG 14（8—2、6—6）8 想球会

⊠富山県高校室内選手権

（2月6、7、11日）

〈男子〉

▽1回戦

高岡向陵 28—5 新湊

富山中部 15—11 富山工

小杉 29—7 富山南

八尾 26—8 大沢野工

雄山 15—6 富山東

富山 15—7 高岡南

高岡商 16—12 伏木

氷見 28—7 富山商

▽2回戦

高岡向陵 40—7 富山中部

八尾 20—15 小杉

雄山 15—9 富山

氷見 25—20 高岡商

▽準決勝

高岡向陵 26（12—4、14—3）7 八尾

氷見 36（18—7、18—1）8 雄山

▽決勝

氷見 18（9—7、9—10）17 高岡向陵

〈女子〉

▽1回戦

高岡向陵 8—5 高岡女

富山女 20—4 雄山

富山北部 14—7 富山女短

▽2回戦

有磯 21—1 高岡向陵

高岡一 棄権 高岡

富山女 10—6 小杉

高岡商 21—5 富山北部

▽準決勝

有磯 35（17—0、18—1）1 高岡一

高岡商 15（7—2、8—2）4 富山女

▽決勝

有磯 11（4—4、7—6）10 高岡商

「いい音」ビューティフル。

自由に気ままに楽しもう、おしゃれなミニカセットレコーダー。

新開発DNSSテープヒスノイズカット回路内蔵。
デジタル選曲機構装備。メタルテープ対応。

小さなボディながらもワイドなステレオサウンドが楽しめる《ステレオミニ6600》。2つの9.2cmスピーカーが叩き出す4.6W(2.3W+2.3W、EIAJ/DC)のハイパワーは、豊かなステレオ臨場感を再現します。また曲の頭出しに便利なデジタル選曲機構や、テープ再生中に曲間および曲間に相当する低録音レベル時の耳ざわりなテープヒスノイズをカットする新開発DNSS(ダイナミック・ノイズ・サプレッション・システム)ノイズカット回路を採用。しかもメタルテープ対応ヘッドを搭載しています。

●AM放送の同調がしやすい周波数間隔を広げたロングスケール採用 ●テレビの1、2、3チャンネルが聴けるFMワイドバンド(76〜108MHz)採用 ●FM局間ノイズをカットするFMミューティング機能つき ●フルオートストップ機構 ●ソフトイジェクト機構 ●ACアダプター付属

●9.2cmスピーカー×2 ●実用最大出力4.6W(2.3W+2.3W)EIAJ/DC ●3電源/DC:9V(単2×6)、AC:100V50/60Hz(付属ACアダプター使用)、カーバッテリー:別売りカーアダプターD-72使用 ●大きさ幅41.0×高さ13.3×奥行7.3(cm) ●重さ2.5kg(乾電池含む) ★キャリングケース(別売りL-6600 ¥4,000)もございます。

パディスコ6600
ステレオ ミニ

TRK-6600 ¥44,800



品質を大切にする〈技術の日立〉

RADIO CASSETTE RECORDER

HITACHI

―― 生活と技術をむすぶ ――

日立家電販売株式会社

〒105 東京都港区西新橋2 15 12(日立愛宕別館) TEL(03)502-2111

ご購入金額から頭金を差引いた金額が1万2千円から100万円までの場合日立のクレジットがご利用いただけます。

●商品のお問い合わせ、クレジットのご相談、カタログのご請求はお近くの日立の家電品取扱店へどうぞ。
★日立カセットレコーダーで録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。★日立カセットレコーダーには保証書がついています。ご購入の際には必ず記入事項をご確認のうえ、お受取りになり、大切に保存してください。

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二〇七号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和五七年四月二十五日印刷 昭和五七年五月一日発行
東京都渋谷区神南一―一―一
電話 代表(467)七〇九七
振替 東京 六―五八三四八番
編集兼発行人 荒川清美
定価三百五拾円
(年間購読料三千三百円)